

# 環境・社会報告書



Environmental &  
Social Report  
**2011**

# 荒川化学グループの概要

## 編集方針

荒川化学グループの事業活動の環境面に関する基本的な考え方、現在までの取り組みと2010年度の実績を報告するとともに、社会面についてもすでに記載している項目を含めて内容の充実を図りました。具体的には以下の項目です。

1. 生活のさまざまなシーンで活躍する荒川化学の製品を特集で紹介しました。一般読者からも分かりやすい見せ方を心がけました。
2. 社会性報告部分にも、従業員のコメントを前年より増やし、より親しみやすく、読みやすい報告書としました。
3. サイトレポートに海外連結子会社(ISO14001認証3社)を掲載しました。

## 対象組織

荒川化学工業株式会社と国内連結製造子会社であるペルノックス株式会社と高圧化学工業株式会社を対象にしました。環境負荷などは、上記3社のデータをまとめて、表やグラフにしています。ただしサイトレポートは3社に加え海外連結子会社3社も対象にしました。その他の報告は、荒川化学グループ全体の情報を掲載しました。

## 記載項目

報告項目の選択にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン(2007年版)」を参考にしました。

## 対象期間

2010年4月1日～2011年3月31日の会計年度を採用しています。  
(発行日2011年8月)

## 次回発行予定日

2012年8月

## 荒川化学グループ

会社数 13社  
連結売上高 664億54百万円  
連結経常利益 29億76百万円  
従業員数 1,321名

## 荒川化学工業株式会社

本社所在地 大阪市中央区平野町  
1丁目3番7号  
創業 1876年(明治9年)11月  
設立 1931年(昭和6年)1月  
資本金 31億2,830万円  
売上高 520億10百万円  
経常利益 20億88百万円  
従業員数 692名  
(2011年3月31日現在)

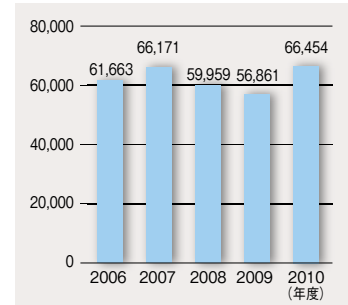
主な製品群 製紙用薬品、  
印刷インキ用樹脂、  
塗料用樹脂、  
合成ゴム重合用乳化剤、  
粘着・接着剤用樹脂、  
食品添加物用樹脂、  
電子材料用樹脂、  
精密部品洗浄システム、  
およびその関連機器

## グループ関連会社(12社)

国内 ペルノックス株式会社  
高圧化学工業株式会社  
カクタマサービス株式会社  
海外 広西梧州荒川化学工業有限公司  
南通荒川化学工業有限公司  
荒川ヨーロッパ社  
荒川ケミカル(タイランド)社  
台湾荒川化学工業股份有限公司  
荒川ケミカル(米国)社  
香港荒川化学有限公司  
厦門荒川化学工業有限公司  
荒川化学合成(上海)有限公司

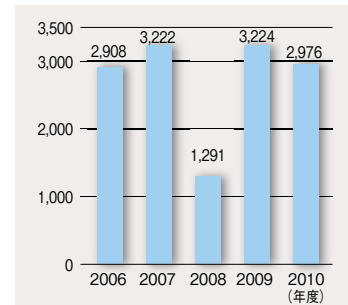
## 売上高(連結)

(単位:百万円)



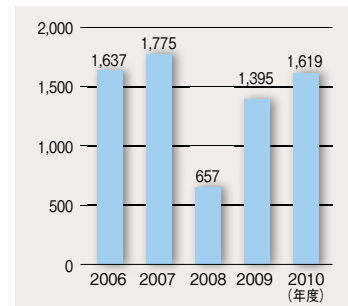
## 経常利益(連結)

(単位:百万円)

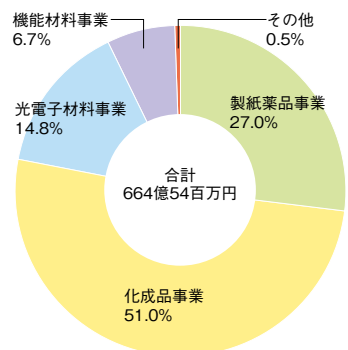


## 当期純利益(連結)

(単位:百万円)



## 売上高構成比(事業分野別、連結)



## 事業概要

### 製紙薬品事業

国内業界ナンバーワンシェアを誇る製紙薬品事業。国内に留まらず中国を中心としたアジアで着実に拡大を続けています。



### 光電子材料事業

汎用コーティングから電子材料まで独自の合成技術による特長のある素材、配合品で社会に貢献します。



### 化成事業

高機能・高品質素材の提供を通じて、印刷インキから粘着・接着剤、タイヤ、チューインガムまで、現代社会の便利を支えています。



ロジケミカル技術  
合成高分子技術  
有機合成技術  
高圧水素添加技術  
フォーミュレーション技術  
技術サービス



### 機能材料事業電子部材

ロジンをよく知る荒川化学だからできる技術の提案。環境対策にも配慮し、エレクトロニクス分野の新しい可能性を開拓します。



### 機能材料事業ファインケミカル

高度なプロセス開発技術とクリーン環境対応工場で、電子材料、高機能性材料分野でお客様のニーズに的確にお応えします。

## 国内・海外拠点



# CONTENTS

編集方針、荒川化学グループ概要 … 1  
事業概要、国内・海外拠点、目次 …… 2  
社長ごあいさつ …… 3-4  
特集 …… 5-6

## 環境報告

環境基本方針 …… 7  
環境マネジメントシステムの推進 …… 8  
環境保全活動の目標と実績、  
環境負荷の全体像 …… 9  
環境会計 …… 10  
製品の環境配慮 …… 11-12  
環境保全活動  
CO<sub>2</sub> 排出量の削減 …… 13  
特定荷主、大気汚染防止、水質汚濁防止 …… 14  
産業廃棄物の削減、土壌汚染対策 …… 15  
化学物質の適正管理 …… 16

## 社会性報告

信頼される企業を目指して …… 17-18  
お客様とのかかわり  
品質保証、お客様満足 …… 19-20  
情報公開 …… 21  
従業員とのかかわり  
人財の育成・活用 …… 22  
労働安全衛生活動 …… 23  
教育訓練・防災訓練 …… 24  
株主・投資家とのかかわり …… 25  
地域・社会とのかかわり …… 26

## サイトレポート

サイト別活動報告  
南通荒川化学工業 …… 27  
台湾荒川化学工業 …… 28  
廈門荒川化学工業 …… 29  
ヘルノックス、高圧化学工業 …… 30  
大阪工場、富士工場 …… 31  
水島工場、小名浜工場 …… 32  
釧路工場、徳島工場、鶴崎工場 …… 33  
第三者意見 …… 34



# 東日本大震災の経験を教訓に、 製品の安定供給に努めるとともに、 経営の原点に立ち返り、 企業としての社会的責任を果たしていきます。



## 被災した小名浜工場の操業を再開しました

平素は当社の事業にご理解を賜り、厚く御礼を申し上げます。

今年3月に未曾有の天災というべき、東日本大震災が発生しました。犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様、並びにご家族の方々に対して、心よりお見舞い申し上げます。そして一日も早い復興を願っております。

当社においても福島県いわき市内にある小名浜工場が被災しました。人的な被害はありませんでしたが、生産設備や倉庫などが損傷を受けたことに加えて、工業用水の供給がストップしたことから、一ヵ月以上、工場の操業を停止せざるを得ませんでした。全社を挙げて工場の復旧に努めた結果、4月末から一部の設備で生産を再開し、5月中旬には全面操業に漕ぎ着けることができました。この間、国内外の工場に代替生産をおこない、製品供給に出来る限り努めましたが、多くのお客様に大変なご迷惑をおかけすることになりました。

昨年の「環境・社会報告書」において、私は「縁を大切にす

る経営」と述べました。そして、今回の震災に際し、あらためてその大切さを痛感いたしました。それは、震災直後に各方面から救援物資を頂戴したほか、社員や家族の避難先の確

## 万一の事態において「現場の力」が 威力を発揮しました

今回の震災はまた、図らずも当社の危機管理能力が試される場となりました。震災直後、本社に直ちに対策本部を設置し、全社を挙げて被災状況の把握に努めるとともに救援活動に着手しました。一方、小名浜工場では外部との連絡が取りにくい状況の中で、懸命に対策本部と連携を取り、人員の安全確保を第一に考えて、的確で迅速な対応を取りました。

万一の事態に際して、社員自らが何をすべきかを現場ですっきり判断し、的確に行動したことは経営者としてうれしく思います。近年、事業継続計画(BCP)が目玉されていますが、今回の震災に関して、当社では日頃から「万一のときには、現場で状況を判断し、考えて、躊躇なく行動する」という社内文化を培ってきたことが奏効した結果であり、当社の良きDNAとして受け継がれていくべきものと考えています。

## 製品の安定供給の重要性を再認識しています

加えて今回の震災では、製品の安定供給に向けた取り組みがきわめて重要であることを再認識しました。特に当社の製品は幅広い分野でご利用いただいていることから、万一供給ができなくなった場合、社会的な影響が甚大です。そのため、今後さらにさまざまなリスクを想定したBCPが重要であるのは言うまでもありません。

例えば、当社における主要原料ロジンの調達について、現状では中国からの輸入に大部分を依存していますが、今後は調達先の多様化を検討していきます。

原料の調達ルートの開拓に加えて、代替品の研究開発にも力を注いでいます。この過程では研究成果をもとに新たな知見を得て、代替品ということに終わるのではなく、新たな機能を備えた新製品の開発につながっています。

それが当社の環境配慮型の製品です。現在、脱鉛クリームはんだをはじめ、光硬化樹脂、水系樹脂など環境配慮型の製品が全体の約50%に達しています。この割合を今後さらに高めていく考えです。なかでも生産プロセスの合理化を進めた水系の粘着・接着剤用樹脂は、需要が伸びていることから増産体制を整えました。

## 逆風の時期こそ経営の原点を大切にしていきます

当社では毎年、経営指標を掲げていますが、2011年度は『「しん」創造 明日の楽しみ 今日つくる』としました。「しん」をあえて平仮名にしたのは、新たなことに挑戦する「新」、当社に関係する人々との信頼関係の「信」など、さまざまな思いを含めています。また、昨年来、ロジンの価格高騰が経営にとって逆風となっていることから、辛抱の「辛」でもあります。

今年度は大震災の影響に加えて、国内外の経済の先行きが不透明など、厳しい一年となることを覚悟しています。しかし、このような時期だからこそ経営の原点を再確認し、身の丈に合った経営で本業に徹することが重要であると考えます。

環境やコンプライアンスへの対応にしても、それぞれの原理原則を社内全体で再認識し、社員一人ひとりが物事の本質を理解した上で行動するように、社内意識のさらなる向上を促していきます。

そして、経営環境の厳しいときこそ、人材の育成に力を注

ぐことで企業としての経営基盤を強固にし、「明日の楽しみ」に向かって経営トップ自らが先頭に立って取り組んでいきます。

## どんなリスクに際しても揺らぐことのない企業を目指します

これまで経営に従事してきた中で思い至ることは、バランスの取れた視点に基づく経営の大切さです。企業経営では会計年度ごとに収益を上げることが第一であるのは言うまでもありませんが、一方で、極端に短期的な視野だけで経営を捉えては、持続的成長のきっかけを見失いかねません。環境への配慮や社会への貢献にしても、将来を見据えた上で課題を明確にしながら取り組みを継続していきます。

加えて今後、いざというときに、平時からBCPに向けた取り組みを積み重ねていくことが重要だと考えます。そして、万一の際にも製品の安定供給という使命を確実に果たせる企業を目指していきます。

今後とも皆様方のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

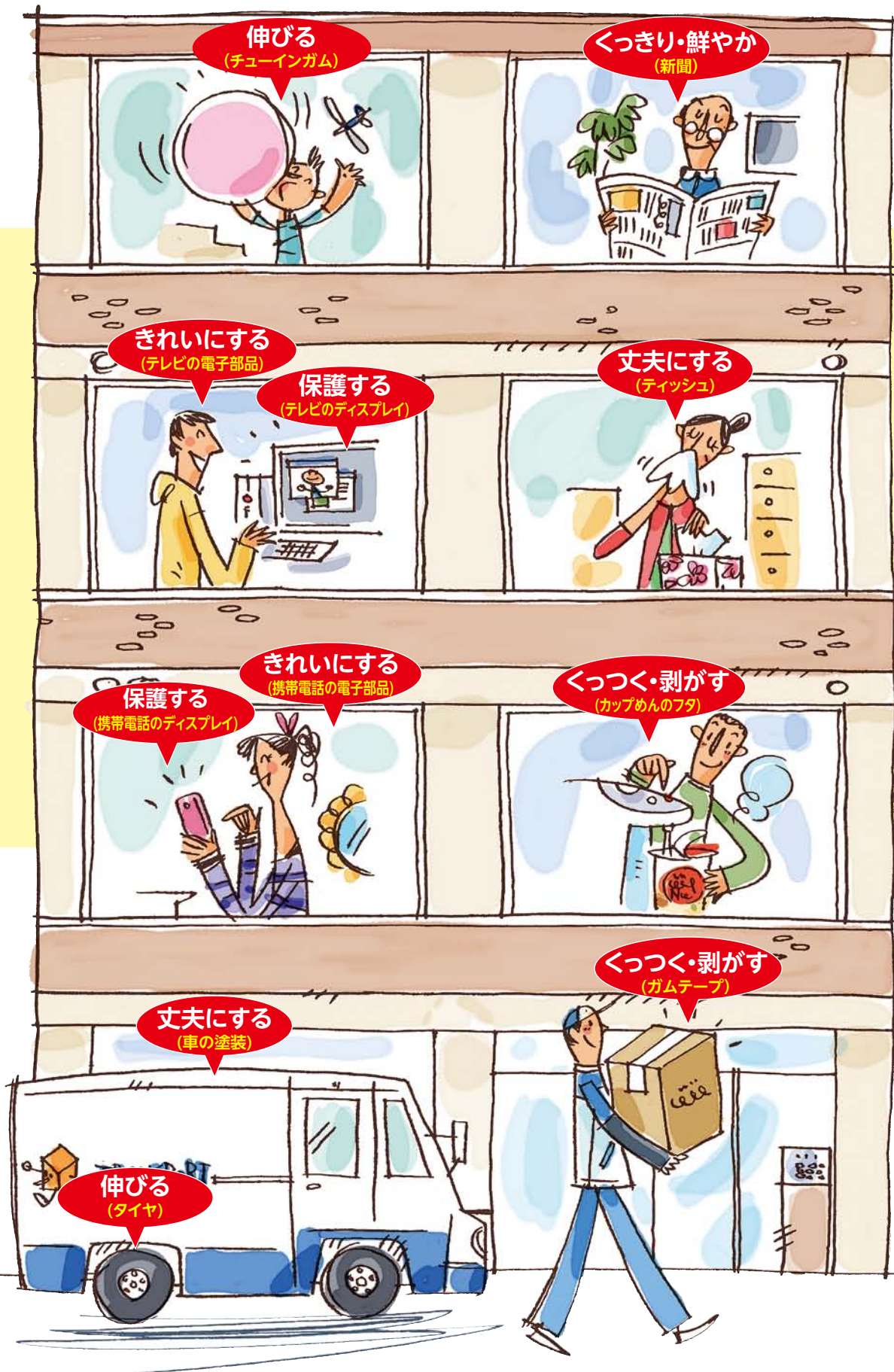


荒川化学工業株式会社  
取締役社長  
末村 長弘

末村 長弘



# 現代の暮らしに欠かせない「機能」で








# 社会に貢献。荒川化学工業の製品

## さまざまな機能で暮らしを快適で便利に

豊かで便利な暮らしの中では、目立たないながら、数多くの素材や添加剤が活躍しています。荒川化学工業が手がけているさまざまな製品もまた、現代の社会になくてはならないものばかり。これまで長年にわたって、天然樹脂であるロジン(松やにの蒸溜物)の特徴を活かして、人々の暮らしを支えてきました。また、近年はロジン以外の原料に基づく機能性材料にも力を入れていて、より便利で、しかも環境にやさしい製品を社会にお届けしています。

荒川の製品種  …ロジン使用製品

<p><b>丈夫にする</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙の繊維をつなぎ、濡れても破れにくい紙(ティッシュ)をつくります</li> <li>車などの表面に塗られた塗料を丈夫に長持ちさせます</li> </ul>	<p>紙力増強剤 塗料用樹脂</p>
<p><b>くっきり・鮮やか</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙の繊維の中に入り込み、インキがにじむのを防ぎきれいに見せます</li> <li>インキがしっかり紙について、色鮮やかな印刷ができます</li> </ul>	<p>サイズ剤(紙のにじみ止め) 印刷インキ用樹脂 </p>
<p><b>保護する</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>液晶画面(携帯電話、パソコン)が傷つかないように保護しています</li> <li>鉄板が錆びないように保護し、しっかりガードします</li> </ul>	<p>ディスプレイ・コーティング剤 塗料用樹脂</p>
<p><b>きれいにする</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>精密電子部品の信頼性を確保するためには、洗浄工程が重要であり、ノンフロンで環境に優しい洗浄剤です</li> </ul>	<p>電子部品洗浄剤</p>
<p><b>伸びる</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チューインガムの噛み心地を良くし、風船ガムを伸びやすくします</li> <li>合成ゴムを作る時に使い、できた合成ゴムの特性を高めます</li> </ul>	<p>チューインガムの添加剤  タイヤの合成ゴムの添加剤 </p>
<p><b>くっつく・剥がす</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子部品を接合する環境に優しいはんだです</li> <li>粘着・接着剤に欠かせない、粘着性を与えます</li> <li>剥離紙の離型剤としてラベルやシールに欠かせません</li> </ul>	<p>脱鉛のクリームはんだ  接着剤の粘着付与剤  剥離紙用離型剤</p>

### ロジンとは?

ロジン(rosin)は、松やにを蒸溜してつくる天然樹脂の一種。粘着性や防水性、密着性などの多様な性質を持っています。そのため、接着剤や塗料、製紙用薬品、印刷用インキ、ワニスなどの原料として幅広く用いられています。近年は電子機器の部品の製造時にも欠かせない素材となっています。



### 安定供給という使命

#### 現状の体制に甘んじることなく、万一の際に向けた取り組みを強化しています

当社製品は社会に広く浸透しており、常に安定供給という社会的責任を担っています。そこで、原材料の調達から製造、納入に至るまで、独自のサプライチェーンマネジメントシステムを構築し、モノの流れの的確な把握に努めています。また、主要製品については生産拠点を分散するなど、リスクの低減を図りつつ、安定供給体制の強化を図っています。さらに、各事業部と連携して、安全・環境対策、技術の開発、原料の安定調達を進めています。

東日本大震災では、万一に対する備えが機能し、地震発生直後に対策本部を立ち上げ、全社員が一致団結して被災地の救助と支援をおこないました。今後は現体制に満足することなく、各種管理システムの充実、PDCAサイクルの強化などを図るとともに、事業継続計画(BCP)についても策定中であり、今回の震災を活かして内容の充実を図っていきます。

執行役員 生産統轄部 西川 学



# 環境報告

荒川化学グループは、その歴史を植物由来の天然樹脂ロジンとともに歩んできました。環境問題や環境対応への取り組みは、創業当時から現在も変わらない事業活動の一環と捉えています。

## 環境基本方針

荒川化学グループでは地球環境と調和する事業活動を行うため、「環境保安基本方針」を基に「環境保安行動指針」を定め、さらに「環境保安委員長4方針」に具体化して、環境に優しい事業活動を進めています。

「環境保安行動指針」については、「生物多様性の確保」の取り組みを盛り込むことが2010年度の環境保安委員会で承認され、2011年4月1日付けで改訂版を発行しました。

### 環境保安基本方針

製品の開発から廃棄に至るまでの環境、安全、健康を確保し、  
地球環境と調和する事業活動を行う

2005年4月1日 取締役社長 末村 長弘

### 環境保安行動指針

1. 環境および保安に関する法令を遵守し、社員一人ひとりがその重要性を認識する。
2. 事業活動において、環境の保全、生物多様性の確保、および社員・地域住民の安全・健康に配慮し、安全操業に努める。
3. 事業活動に伴う環境への負荷の低減、省資源・省エネルギーを推進する。
4. 事業活動における環境・保安事故および労働災害の防止のため事故事例を解析し、情報を収集して適切な防止対策を実施する。
5. 製品の開発および新プロセスの開発は、環境・安全・健康の確保に配慮して行う。
6. 製品、原材料等取扱い物質の環境・安全・健康への影響に配慮し、安全性の調査・研究に努める。
7. 製品の安全な取扱いを図るために顧客へ必要な情報を提供する。
8. 製品や事業活動に関する行政当局や地域住民の関心に留意し、より一層の信頼が得られるようコミュニケーションに努める。
9. 海外への事業展開において、当該国の法令を遵守するとともに、環境保全、生物多様性の確保、安全・健康の確保に努める。

2011年4月1日改訂 環境保安委員会

## 環境保安委員長4方針

環境保安委員長の4方針は、2012年度（第2次中期経営計画最終年）のありたい姿を示すもので、内容と現在の取り組み状況は以下のとおりです。

### 1. 全社保安体制の構築

環境・保安のリスクマネジメントを確立してリスクの低減を進めます。また、環境保安委員会を対策本部とする緊急時の体制の構築を行いました。各事業所の防災訓練と連携した訓練を積み、レベルアップを進めています。

### 2. リスク監査導入による環境保安監査の充実

第2次中期経営計画のスタート年度である2008年度より、環境保安監査はリスク監査の手法を導入して進めています。リスク監査の充実を図り、継続的改善に繋がる監査となるよう実施していきます。

### 3. 環境に関する中期目標設定と実現のためのマネジメントシステム充実

環境負荷削減の中期目標の設定および活動、ISO14001未取得事業所の環境マネジメントシステム構築を進めています。また、環境負荷削減をより確実なものとするため、グリーン規定を制定し運用しています。

### 4. 組織の整備

各事業所から推進委員を選任して、省エネ法、温対法の改正に対応した組織を整備し、省エネルギー、CO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。



# 環境マネジメントシステムの推進

荒川化学グループでは、「環境保安基本方針」、「環境保安行動指針」、「環境保安管理規定」および「グリーン規定」を基に各事業所で計画を立て環境に配慮した活動を実施しています。

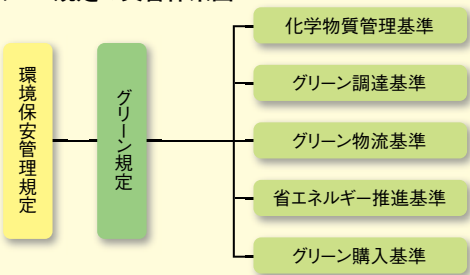
## グリーン規定

地球環境にやさしい企業活動をより確実に推進していくため、2010年4月に「グリーン規定」とそれに関連する5つの基準を制定しました。

グリーン規定では、「グリーン」を「地球にやさしい状態」と定義し、「化学物質の適切な管理」、「大気、水域、土壌汚染の防止」「使用エネルギー及び温暖化ガス排出の削減」「3Rすなわちリデュース(削減)、リユース(再使用)、リサイクル(再資源化)の実施」「廃棄物の適正管理」などをおこない、環境負荷を低減した状態を実現することを目指します。

各事業所で構築・運用されている環境マネジメントシステムの中にグリーン規定で定める内容を取り込んで、環境への取り組みをより確実なものにしていきます。

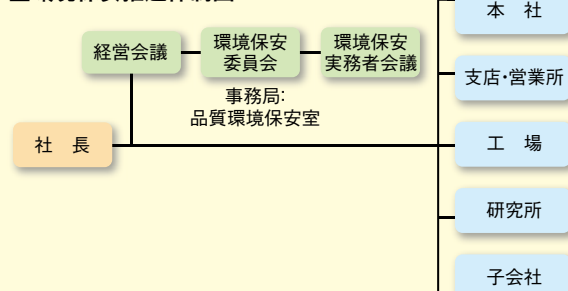
### ■グリーン規定の文書体系図



## 環境保安推進体制

環境保安委員会は、保安担当役員を委員長に、実施責任者である関連部門長(品質環境保安室長、総務部長、研究所長、生産統轄部長、大阪工場長、富士工場長、水島工場長、小名浜工場長、水島工場品質環境保安課長)をメンバーとし、全社的な取り組みを確実なものにするため社長も参加して年1回定例会議を開催しています。この定例会議では、前年度の活動実績報告および当年度の環境保安年度計画を審議しています。

### ■環境保安推進体制図



## ISO14001/エコアクション21の 認証取得状況

日本国内においては、荒川化学の大阪・富士・水島・小名浜の主力4工場とペルノックスが環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証取得をしています。

また、高圧化学では、小規模事業所向け環境マネジメントシステムである「エコアクション21」を認証取得しました。2010年度は、それぞれ維持・更新審査を受審し合格しています。

### ■国内の取得・審査状況

事業所名	登録番号	認証取得日	審査実施日
水島工場	JQA-EM0369	1999年3月12日	2011年1月27-28日
富士工場	JQA-EM1427	2001年3月16日	2011年2月22-24日
小名浜工場	JQA-EM1577	2001年5月18日	2010年4月27-28日
大阪工場・研究所	JQA-EM1590	2001年5月25日	2010年3月9-11日
ペルノックス	JQA-EM3719	2004年1月30日	2010年12月14-15日
高圧化学	エコアクション21 0002736	2008年8月1日	2010年6月14-15日

※ISO14001の審査登録機関は、すべて(財)日本品質保証機構、エコアクション21は(財)地球環境戦略研究機関です。

海外グループ会社においては、廈門荒川化学、台湾荒川化学が2007年に、南通荒川化学は2009年にISO14001認証を取得しており、2010年は維持審査を受審し合格しています。

### ■海外の取得・審査状況

事業所名	登録番号	認証取得日	審査実施日
廈門荒川化学	206932	2007年1月31日	2010年10月14-15日
台湾荒川化学	TW07/0113EM	2007年10月17日	2010年9月17日
南通荒川化学	00109E22023ROS/ 3200	2009年10月28日	2010年6月28-29日

## その他事業所の 環境マネジメントシステム

釧路・徳島・鶴崎の各工場は、荒川版環境マネジメントシステムを構築し、2009年度から運用を始めました。

本社、支店、営業所については、2010年度中に環境マネジメントシステムを構築、2011年度から運用を始めました。

# 環境保全活動の目標と実績、環境負荷の全体像

荒川化学グループでは環境負荷低減に向けた目標を掲げ、継続的かつ着実な活動を実施しています。

## 環境保全活動 目標と実績

### 環境保全活動の結果

荒川化学グループでは、地球にやさしい企業を目指して単年度目標と2012年度中期目標を立てて、環境負荷削減活動をおこなっています。

2010年度は2007年度対比で、生産量が大幅に減少した結果、環境負荷物質の絶対量は減少し、原単位は逆に悪化しました。対前年では、生産量はほとんど変化ありません

が、削減活動の成果が表れ、環境負荷は確実に低減しています。

### 環境保全活動の目標

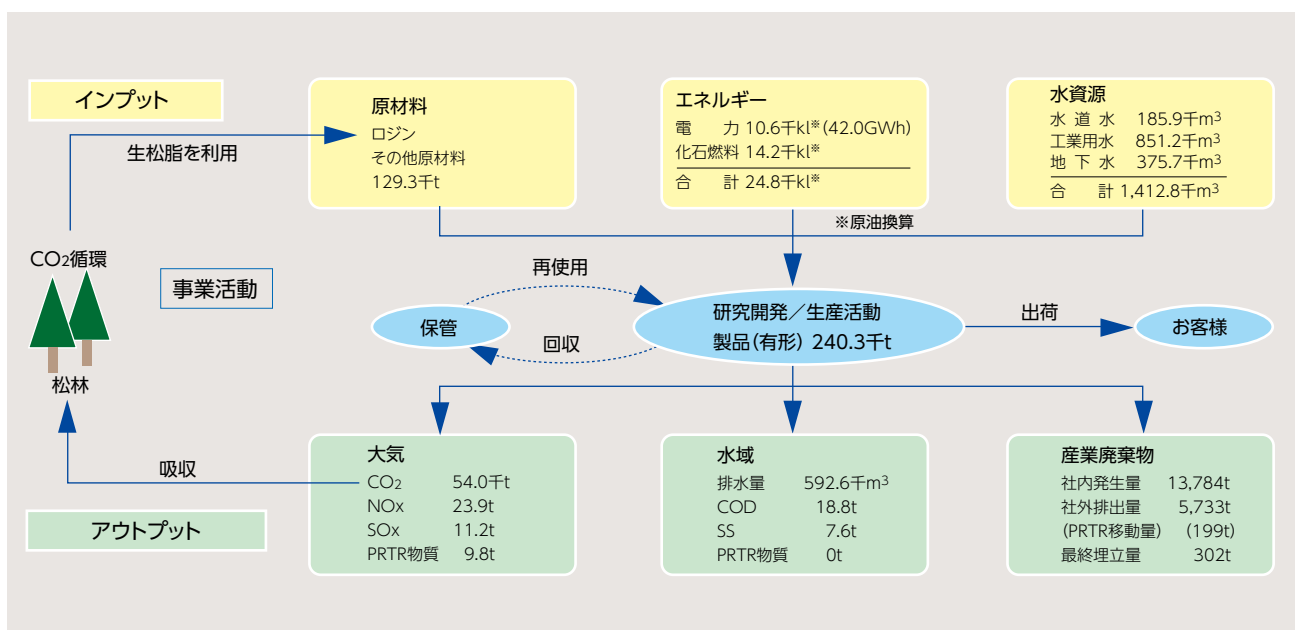
2011年度の目標は、2012年度中期目標に沿って設定しました。2011年度中には、次の中期目標を設定します。

項目も見直し海外グループ会社も含めた、目標を検討していきます。

評価基準：○目標以上達成 ○ほぼ目標通り達成 ×目標未達 ××目標大幅未達

重点テーマ	2010年度荒川化学グループの環境保全活動				2011年度目標	2012年度目標
	目標	実績	評価	関連頁		
環境マネジメントシステムの確立と維持	ISO14001、エコアクション21取得事業所の維持審査合格 その他事業所のEMS構築	ISO14001認証取得4工場、 ヘルノックス、高圧化学エコアクション21維持審査合格	○	P8	ISO14001、エコアクション21取得事業所の維持審査合格、 その他事業所のEMS構築	全事業所の環境マネジメントシステムの構築
環境会計の実施	環境保全コスト、物量効果、経済効果を荒川化学グループで実施	環境保全コスト、物量効果、経済効果を荒川化学グループで実施	○	P10	環境保全コスト、物量効果、経済効果を荒川化学グループで実施	環境会計の継続、環境経営へのアドバイス
省エネルギーの推進	エネルギー原単位を2007年度比3%削減	エネルギー原単位を2007年度比8.9%増加	××	P13	エネルギー原単位を2007年度比4%削減	エネルギー原単位を2007年度比5%削減
CO <sub>2</sub> 排出量の削減	CO <sub>2</sub> 排出量を2007年度比3%削減	CO <sub>2</sub> 排出量を2007年度比3.9%削減	◎	P13	CO <sub>2</sub> 排出量を2007年度比4%削減	CO <sub>2</sub> 排出量を2007年度比5%削減
産業廃棄物の削減	最終埋立率 2%以下	最終埋立率 2.2%	×	P15	最終埋立率 1%以下	最終埋立率 1%以下
化学物質の適正管理	PRTR対象物質の排出量を2007年度比3%削減	PRTR対象物質の排出量を2007年度比48.2%削減	◎	P16	PRTR対象物質の排出量を2007年度比4%削減	PRTR対象物質の排出量を2007年度比5%削減
	PRTR対象物質の移動量を2007年度比3%削減	PRTR対象物質の移動量を2007年度比42.6%削減	◎		PRTR対象物質の移動量を2007年度比4%削減	PRTR対象物質の移動量を2007年度比5%削減

## 環境負荷の状況



# 環境会計

荒川化学グループでは、総合的効果対比型環境会計をツールとして、環境にかかるコスト、効果、物量を把握、管理していきます。2010年度は、緑地の整備に注力しました。

## 2010年度実績集計結果

- (1) 2010年度の投資額は1億53百万円で、2009年度より増加しています。主な環境投資としては、ボイラー更新、排水処理施設、排気設備など環境関連設備の保全の強化および緑地の整備です。
- (2) 環境保全コストの費用は11億27百万円で、2009年度より増加しています。金額順では、環境配慮製品の研究

開発費用、産業廃棄物の削減、減量、リサイクルや処理に関わる費用、公害防止設備に関わる費用などです。

- (3) 環境保全効果では、CO<sub>2</sub>、環境負荷物質排出量は前年並みでした。廃棄物のリサイクルで、富士工場が成果を上げたことにより、埋立量が減少しました。
- (4) 経済効果は、リサイクルによる収入が増加し廃棄物処理費が減少しましたが、エネルギー使用額は増加しており、全体では前年並みでした。

### ■環境保全コスト

(単位：百万円)

分類	主な取り組みの内容	2009年度		2010年度		関連頁
		投資額	費用額	投資額	費用額	
事業エリア内コスト		69	573	131	597	
①公害防止コスト	公害防止設備の導入・維持管理	57	294	106	279	P.13,14
②地球環境保全コスト	省エネ型設備・機器の導入	5	36	19	67	P.13,14
③資源循環コスト	廃棄物減量化・リサイクル、外部委託処理	7	243	6	251	P.15
上下流コスト	包装容器のリサイクル	19	103	0	125	—
管理活動コスト	環境マネジメントシステムの維持	0	47	6	45	P.8
研究開発コスト	環境配慮型製品の研究開発	0	217	0	332	P.11,12
社会活動コスト	地域における環境保全活動	0	21	16	23	P.26
環境損傷コスト	大気汚染負荷量賦課金	0	3	0	5	—
合計		88	964	153	1,127	—

### ■環境保全効果

効果の内容および効果を表す指標	環境負荷量		2009年度比環境負荷増減量
	2009年度	2010年度	
SOx排出量(t)	12.8	11.2	-1.6
NOx排出量(t)	25.7	23.9	-1.8
水使用量(千m <sup>3</sup> )	1,385	1,413	28
COD量(t)	18.5	18.8	0.3
SS量(t)	7.1	7.6	0.5
CO <sub>2</sub> 排出量(t)	52,516	54,022	1,506
有価物の売却量(t)	2,548	2,719	171
廃棄物排出量(t)	5,668	5,733	65
廃棄物埋立量(t)	373	302	-71

### ■環境保全対策に伴う経済効果(実質的効果)

(単位：百万円)

効果の内容	金額	
	2009年度	2010年度
廃棄物のリサイクルによる事業収入	32.3	45.7
省エネルギーによるエネルギー費の削減	29.4	-13.5
省資源またはリサイクルに伴う廃棄物処理費の削減	-3.4	25.0
合計	58.3	57.2

### 集計について

- (1) 集計期間：2010年4月1日から2011年3月31日まで
- (2) 集計範囲：荒川化学工業株式会社、パルノックス株式会社、高圧化学工業株式会社
- (3) 集計参考：環境省「環境会計ガイドライン2005年版」及び(社)日本化学工業協会 日本レスポンシブル・ケア協議会「化学企業のための環境会計ガイドライン」を参考にしました。
- (4) 集計の考え方
  - ・減価償却費は財務会計上の金額。
  - ・投資金額は集計期間の検収ベース金額。
  - ・環境保全活動以外の内容を含んでいる投資・費用は、環境保全に関わる割合を適切に按分して算出。
  - ・研究開発コストは、個々の研究テーマ毎に環境保全係数を決め、環境配慮型製品の研究開発に費やした研究開発時間をベースに算出。
  - ・効果は物量および金額で集計しました。「みなし効果」「偶発的效果」は算定していません。



# 製品の環境配慮

荒川化学グループの持つ技術は、既存分野において環境負荷低減に役立っています。そして、新しい分野においても貢献できる技術の開発を目指しています。

## 既存分野での取り組み

### UV硬化型シリコン樹脂『シリコリース』

#### 安全で省エネルギー、省資源につながるラベルが作れます

これまでの普通のラベルには、剥離紙が使用されており、使用の際にラベルと同量の剥離紙がゴミとなって廃棄されていました。当社のUV硬化シリコン樹脂『シリコリース』を使用したライナーレスラベルは、剥離紙が不要なラベルであり、ゴミとなる剥離紙を無くしたことにより、省資源を達成しました。また『シリコリース』を使うことで、有機溶剤が不要となるのでVOCの削減にもつながります。さらにUV硬化型は熱硬化型に比べて少ないエネルギーで硬化するので、省エネルギーにも貢献します。



剥離紙が出ない  
「シリコン  
ライナーレスラベル」



剥離紙が付いていた  
従来品

### 資源リサイクルに貢献する製紙用薬品 「ポリストロン」、「サイズパイン」

#### 紙を丈夫にしてリサイクルに貢献します

紙のリサイクルの推進は、木材資源の有効利用、ゴミの減量など環境問題に有効な取り組みです。しかし、何度もリサイクルすると古紙パルプは、短く、細く、弱くなり、再生紙の品質が低下してしまいます。

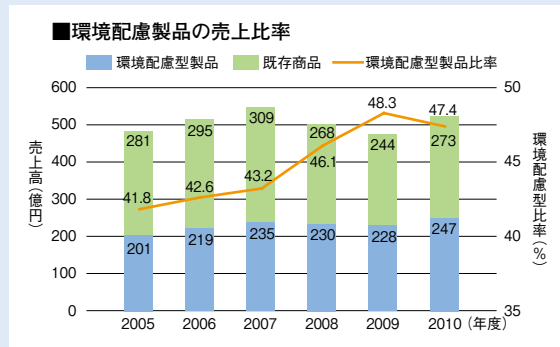
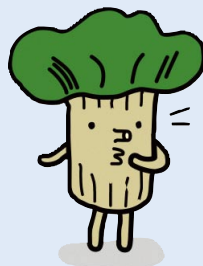
これを解消するため種々の薬品を取り揃えています。破れにくくするための薬品「ポリストロン」や、水が染み込みにくくなる薬品「サイズパイン」など、お客様が必要とされる性能を効率よく発揮する製紙用薬品で、紙・板紙のリサイクルに貢献しています。



製紙用薬品を使うことで、新しい紙へと生まれ変わる

## 環境配慮製品の売上比率

研究所のISO14001活動の中で開発された環境配慮型製品が売上高、売上に占める比率は着実に伸びています。



## 新しい分野への発展

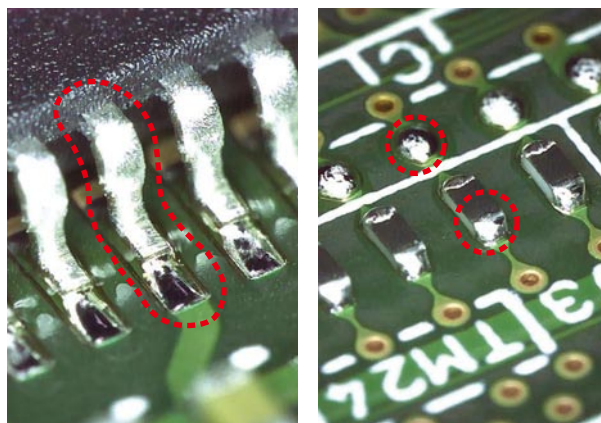
### 高度汎用クリームはんだ『VAPY』シリーズ

#### 環境にやさしい鉛フリークリームはんだで新製品を発売

電子回路の基板に電子部品を設置するのに、鉛とスズの合金であるはんだがこれまで使用されてきましたが、鉛は人体に有害であり、廃棄後には自然環境への悪影響が生じる場合もあることが分かり、鉛を含まない鉛フリーはんだの普及が進みました。

荒川化学では幅広い使用条件に対応でき、不良の発生と廃棄物の低減も可能な高度汎用クリームはんだVAPYシリーズを開発しました。これは、クリームはんだに含まれるフラックスの主要原料であるロジン、そのパイオニアとしての技術を結集して鉛フリークリームはんだの一段の高

性能化に成功したことによりです。その結果、性能項目のすべてにおいて平均を上回り、優れた安定性により使用条件の変化に強く、生産性の向上と廃棄物の低減を可能にしました。



長期間の保存が可能で、長時間の連続的な使用においても、大型～微小電子部品のいずれにおいても優れたはんだ付け性能が得られる

## 環境にやさしい酸化反応プロセス

### クリーンな過酸化水素を使用し廃棄物の少ない酸化反応プロセスを開発しました

NEDO\*プロジェクト「グリーン・サステナブル・ケミカルプロセス基盤技術開発プロジェクト」に(独)産業技術総合研究所とともに当社も参加しています。

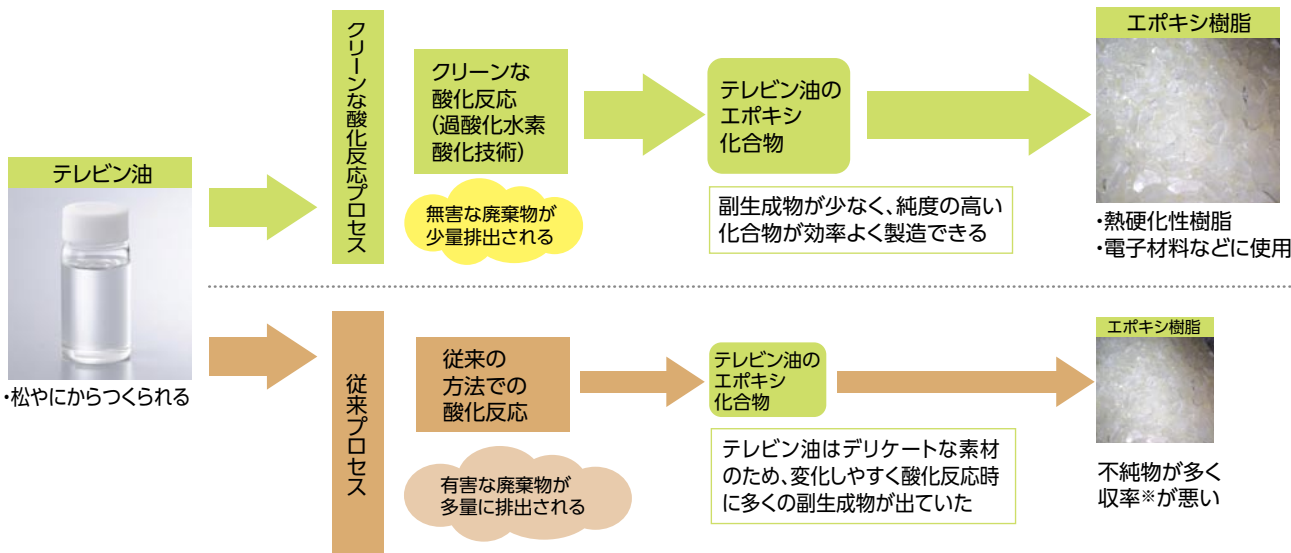
このプロジェクトに参加することで、当社の特長を活かし

た植物由来原料(テレピン油など)から、電子材料などに利用可能なエポキシ化合物を製造することが可能になりました。

この製法は、クリーンな酸化剤を用いることで、有害な廃棄物の排出を大幅に削減できるものです。現在、工業化に向け、検討を重ねています。

\*NEDO=New Energy and Industrial Technology Development Organization (新エネルギー・産業技術総合開発機構)の略で、「エネルギー・地球環境問題の解決」と「産業技術の競争力強化」を目的とした産学官の連携促進のための様々な制度の実施を行う独立行政法人

#### ■環境にやさしいプロセスでエポキシ化合物ができるまで



\*収率：物質の最大量に対する実際に得られた物質量の比率

# 環境保全活動

環境への負荷を低減することは、事業活動を持続的に発展させるために不可欠な取り組みです。荒川化学グループではそのことを最優先課題として認識し、一丸となって取り組んでいます。

## CO<sub>2</sub>排出量の削減

さまざまな施策によって省エネルギーなどを推進し、CO<sub>2</sub>発生削減を進めました。

生産活動における燃料の燃焼などエネルギー消費に伴い地球温暖化ガスのCO<sub>2</sub>が排出されます。そのため、省エネルギーなどの実施によりCO<sub>2</sub>排出量の削減に努めました。

2010年度はCO<sub>2</sub>排出量削減のため、富士工場で燃料をLPGからCO<sub>2</sub>発生量の少ない都市ガスへ転換しました。これは、環境省のJVETS(自主参加型国内排出量取引制度)の参加事業です(P.31参照)。

省エネルギー機器(高効率照明、インバーターなど)の導入、エネルギーの無駄排除(蒸気配管の管理強化、ボイラーの運転管理徹底、建屋断熱化による暖房燃料削減)などを推進しましたが、2008年度の世界的不況で減少した生産量が十分回復していないため、単位生産量当たりのエネルギー消費量を示す「エネルギー原単位」は2007年度比で8.9%増加し原単位削減目標(3%減少)を達成できませんでした。

CO<sub>2</sub>排出量は3.9%減で、2010年度目標(2007年度比3%減)を達成することができました。

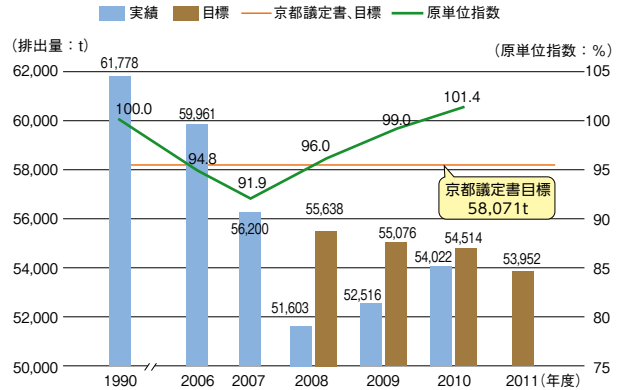
これは、上記取り組みに加えて2007年度比で生産量が減少したことが要因です。

### ●今後の取り組み

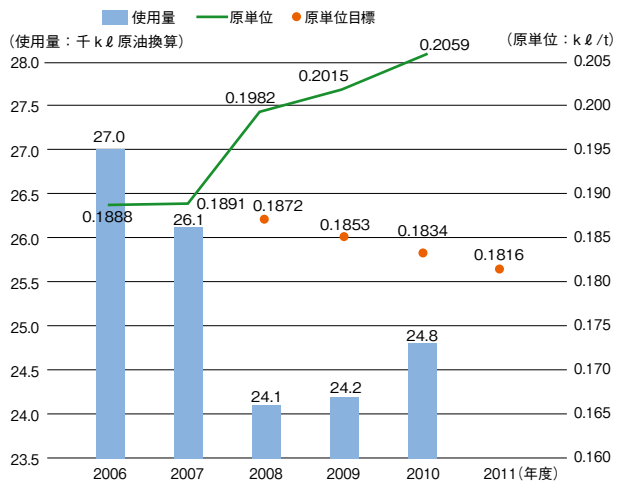
- ・CO<sub>2</sub>削減目標は、2011年度は2007年度比4%削減とします。
- ・CO<sub>2</sub>排出量削減、省エネルギーに向け不断の努力を続けていきます。

・植物由来のロジンから製造中に副生する油を燃料として使うことを徹底し、再生可能エネルギーを活用していきます。

■CO<sub>2</sub>排出量の推移



■エネルギー使用量の推移



## VOICE

### JVETS(自主参加型国内排出量取引制度)に参加して

富士工場ではISO14001活動の一環として、2010年5月にJVETS(ジェイベッツ: Japan's Voluntary Emissions Trading Scheme)に参加しました。JVETSとは国内の温室効果ガスの確実な削減とキャップ・アンド・トレード方式による国内排出量取引制度に関する知見・経験の蓄積を目的として、環境省が始めた制度で、温室効果ガスの排出削減に自主的・積極的に取り組もうとする事業者に対し、一定量の排出削減約束と引き換えに省エネルギーなどによるCO<sub>2</sub>排出抑制設備の整備に対して事業費の1/3の補助金が交付支援される制度です。

当工場はLPGから都市ガスへの燃焼転換をおこなうとともに小型貫流ボイラーの更新及び事務棟内の給湯設備をヒートポンプ方式へ更新しました。

手続きとしては、申請後環境省からの採択を受け、第三者検証機関による検証を踏まえて当工場の排出初期割当量を確定します。2011年度は設備導入後の削減対策実施期間で、1年間の活動実績から来年度のCO<sub>2</sub>排出量の検証がおこなわれます。

目標となるCO<sub>2</sub>削減を達成できるよう導入した小型貫流ボイラー他設備の安定稼働に取り組むとともに、各職場でもより一層省エネルギー活動への意識を高め、工場全体での環境活動を進めていきます。



富士工場 工務課  
末廣 健一



## 特定荷主

エネルギー原単位は2006年度比25%増加しました。

荒川化学は、「省エネ法」の特定荷主に該当しており、輸送によるエネルギー消費の減少に努め、実績および次年度の計画を報告するよう定められています。

輸送の効率化、エコドライブ※、低公害車導入の推進などの対策に取り組みましたが、単位輸送量当たりのエネルギー消費量を示す「エネルギー原単位」は2006年度比で25%増加し、原単位削減目標(4%減少)を達成できませんでした。

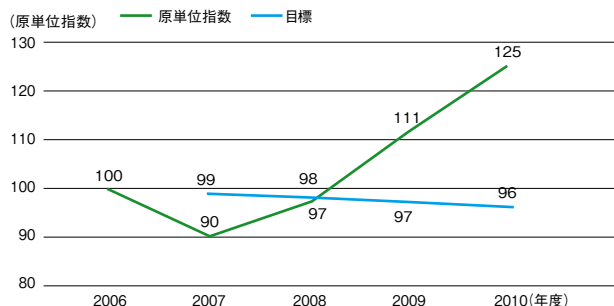
これは、2006年度比で生産量が回復しないことや、特殊な配送(冷凍便など)の増加による積載率の悪化などが要因です。

※エコドライブ:急加速、急減速などをせず、極力燃料を節約する運転方法。アイドリングストップ、デジタルタコグラフ、エコタイヤなど

### ●今後の取り組み

- ・2011年度は輸送の効率化、エコドライブなどで省エネルギーを推進します。

### ■輸送に関わるエネルギー原単位



## 大気汚染防止

高性能な脱臭装置を富士工場にも設置しました。

VOC(揮発性有機化合物)の排出削減や近隣住民への臭気対策として、高性能な脱臭装置を大阪工場に続いて富士工場にも設置しました。

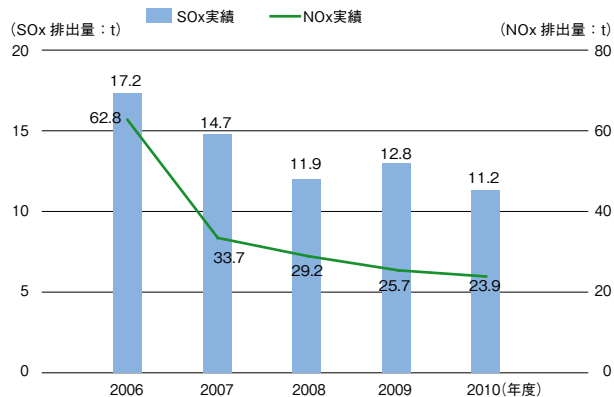
SOx、NOx排出量を減少させる対策として、ボイラー燃料のガス化などの対策を実施し、規制値に比べ十分低い値を維持しており、「規制値遵守」を維持できています。

### ●今後の取り組み

- ・今後も法規制値を遵守していきます。
- ・VOCの排出削減や近隣住民への臭気対策として、高性

能な脱臭装置の増設をさらに進めていきます。

### ■SOx・NOx排出量の推移



## 水質汚濁防止

排水処理の管理に努め、法規制値を遵守しています。

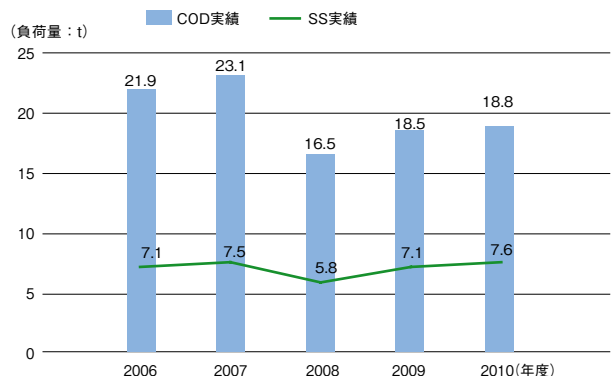
荒川化学グループは水溶性の製品を多く製造しており、それらの製造の際に製造設備やタンクローリーから排出する洗浄水は環境への負荷が大きいため、その処理は重要です。

2010年度においても、排水処理の管理に努めた結果、懸濁物質(SS)、化学的酸素要求量(COD)などの規制値を十分クリアする結果となりました。

### ●今後の取り組み

- ・排水処理設備の維持に努め、法規制値の遵守を継続していきます。

### ■COD・SS負荷量の推移



### 産業廃棄物の削減

産業廃棄物の有効利用を進めましたが、最終埋立率2%以下の目標は若干の未達でした。

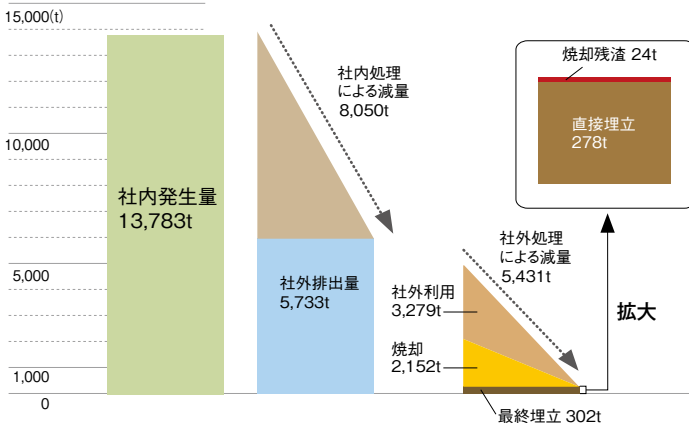
2010年度は、廃溶剤などの有効利用に取り組み2,719tを有価物として売却しました。

富士工場では脱水汚泥と焼却灰について燃料やセメントなどへのリサイクルにより最終埋立量を38%減量する成果を上げました。

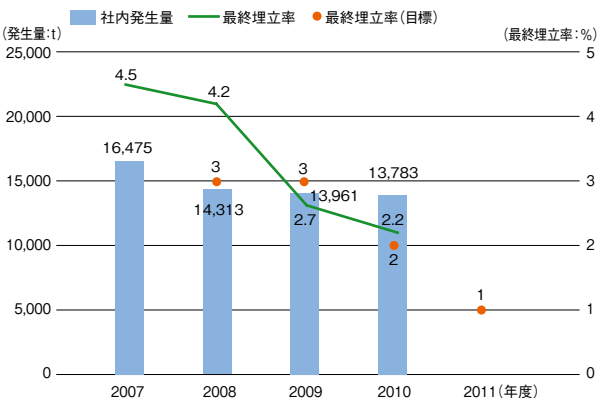
これらの対策実施の結果、最終埋立量は2009年度比20%減の302tとなりました。最終埋立率※は2.7%から2.2%に減少も、2010年度の目標(2%以下)には若干未達でした。

※最終埋立率=(最終埋立量/社内発生量)×100(%)

■2010年度 産業廃棄物処理フロー



■産業廃棄物の推移



●今後の取り組み

- ・リサイクル利用や焼却処理を推進し、最終埋立率の目標を2011年度は1%以下として取り組んでいきます。

### VOICE

#### 富士工場での廃棄物削減への取り組み



富士工場  
事務課業務係  
谷口 信宏

富士工場では埋立処分  
で排出していた廃棄物を、  
2010年度からできる限り  
リサイクルに回すように社  
外の処理業者の選定やリ  
サイクル方法を検討しまし  
た。富士工場で排出される  
廃棄物は、廃水処理場から  
出される脱水汚泥、製造工  
程より出されたる過残さ、  
廃燃プラントより出される焼却灰及びばいじんに  
分類されます。このうち、脱水汚泥が富士工場の廃  
棄物全体の9割以上を占め、社外で焼却燃料化す  
ることで2010年度の埋立排出量は3割減となりま  
した。

現在は最終埋立率の目標値2012年度1%以下  
と、ゼロエミッションを目指し取り組んでいますが、  
当工場において廃プラスチックの混載と呼んでい  
る、はっきりと分別ができない使用済みのホースや  
GAF(布袋でろ過)などのろ過フィルター、その他  
細々としたものの分別や、分別するための保管ス  
ペースの確保など様々な課題について今後も検討  
を重ねていきます。

### 土壌汚染対策

土壌汚染の自主検査を適切に実施し、  
現状把握に努めています。

荒川化学グループの工場では、「土壌汚染対策法」で  
規定する特定有害物質を使用しています。

土壌を掘削し場外へ排出する工事をおこなう場合は土  
壌サンプルを採取し、特定有害物質や油分の含有、pHなど  
の分析をおこない、土壌汚染が発見された時には対策を実  
施します。2010年度は土壌汚染対策法に関わる形質変  
更、売却などの事例は発生しませんでした。

2010年4月に改正土壌汚染対策法が施行されました  
が、適正な対応をおこなっています。

## 化学物質の適正管理

グリーン規定に従い化学物質を適正に管理していきます。

### 化学物質の排出・移動量

改正PRTR法に対応して2010年度より新しい該当物質のデータ収集をおこないました。

また、2010年度から排出量の算出方法を、従来よりも現

状を反映しやすい方法に改善しました。

2010年度の目標は、2007年度比で排出量、移動量とも3%削減でしたが、排出量は48%減少、移動量は42%減少と目標を大きく上回りました。排出量の減少は算出方法の改善も要因です。

#### ●今後の対応

・今回改善した算出方法で、継続して排出量を監視していき、環境対応設備の新設などにより環境への排出を減らしていくよう努力を続けます。

#### ■荒川化学グループ PRTR対象物質の排出・移動量(主要12物質)

単位:kg(ただし、ダイオキシン類のみmg-TEQ)

PRTR対象物質	号番号	排出量			移動量		
		2008年度	2009年度	2010年度	2008年度	2009年度	2010年度
トルエン	300	9,536	8,286	5,428	83,965	79,423	88,808
キシレン	80	2,570	2,751	1,908	77,933	84,089	49,832
エチルベンゼン	53	2,569	2,760	1,905	77,933	84,089	49,832
アクリロニトリル	9	137	120	186	0	0	0
メタクリル酸メチル	420	209	196	109	0	0	0
トリエチルアミン★	277	—	—	83	—	—	0
エピクロヒドリン	65	369	357	64	0	0	0
スチレン	240	192	173	49	103	164	149
アクリル酸	4	3	3	15	0	0	0
エチレングリコールモノエチルエーテル	57	18	26	10	1,094	774	761
フェノール	349	222	132	4	0	0	0
ホルムアルデヒド	411	991	940	2	0	0	0
その他※		62.0	39.9	59.6	9,059	37,832	10,058
合計		16,878	15,785	9,821	250,088	286,371	199,440
ダイオキシン類	243	0.000018	0.23	0.000135	4.04	0.66	0.60

※ その他:ノルマルヘキサン、4-ターシャリブチルフェノール★、酢酸ビニル、アルファ-メチルスチレン★、亜鉛の水溶性化合物など

★ 法改正による追加物質

### PCB廃棄物の管理

荒川化学グループでは、トランスなどの電気機器を「廃棄物処理法」に従って適正に保管・管理しています。また、「PCB処理特別措置法」に基づくPCB廃棄物の処理計画に沿って、適切に処理を進めていきます。

### 環境に関わる事故

荒川化学グループでは、2010年度も環境保全活動を強力に推し進めた結果、環境に関わる事故は発生しませんでした。また、環境関連の訴訟や環境関連法規制による処罰等もありませんでした。2011年度も環境関連の法律・条例などを遵守するとともに、環境保全活動をさらに徹底し、事故ゼロを目指していきます。

### グリーン規定※に基づく化学物質管理

荒川化学では、環境負荷を最小化し地球にやさしい企業活動を実現するため、化学物質管理基準を運用し、購入か

ら廃棄まで企業活動の各場面での管理をより確実なものにしています。

※グリーン規定についてはP.8をご参照ください

## VOICE

### 新製品の化学物質管理を徹底しています。

新たに開発した製品の初回製造前に「製品評価リスト」を作成し、新製品の法規制の確認や危険有害性の評価を実施しています。新製品の設計段階から、原材料などについて有害物質の含有も把握し、MSDS(P.20参照)などによりお客様に製品の危険有害性情報を提供しています。

今後も地球環境に優しいグリーンな製品の開発に努めていきます。



化成事業部  
研究開発部  
三宅 一紀



# 社会性報告

荒川化学グループは、事業を通じて社会へ貢献していくことを企業の使命と捉え、また、社会における当社の役割を常に意識しながら、今後も様々なステークホルダーとの関わりを大切にしていきます。

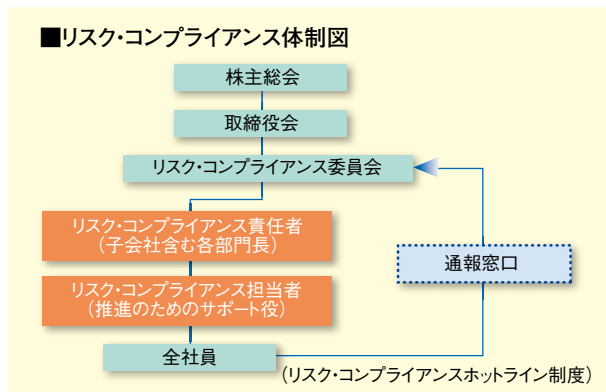
## 信頼される企業を目指して

法令・社会規範を守り、社会から信頼される企業として評価いただけるよう努めています。

### ■リスク・コンプライアンス体制

当社は、リスク・コンプライアンス委員会を、取締役会の下部組織として設置しています。同委員会は、当社グループのリスク管理を適正におこない、リスクの発生を未然に防止する体制と万一リスクが顕在化した場合に適切な対処をおこなう体制を構築することおよびコンプライアンスを確保することを目的としています。同委員会の活動により、当社グループの事業目的の達成と持続的安定的な発展をより確実なものとしします。

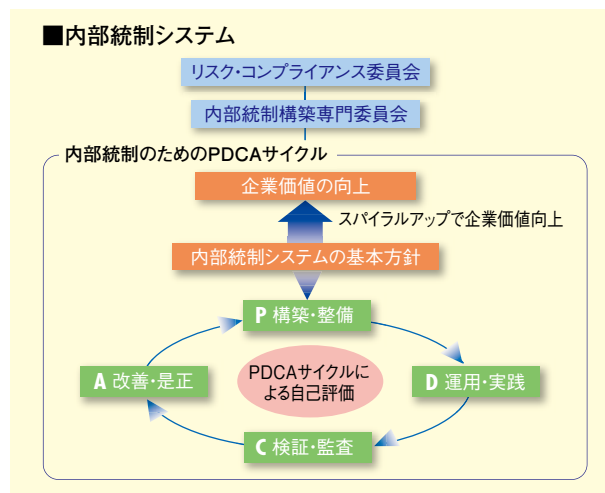
併せて「コンプライアンス綱領」、「コンプライアンス倫理綱領『迷ったら』」および「コンプライアンス行動マニュアル」を制定、「リスク・コンプライアンスホットライン」を開設しています。



### ■内部統制システム

内部統制システムの基本方針に基づき、経営目標を有効・効率的かつ適正に達成するため、コーポレート・ガバナンスが有効に機能する業務の適正を確保する体制を整備、構築しています。さらに、PDCAサイクルにより継続的に内部統制システムの有効性を評価するとともに改善に努め、さらなる充実を図っています。

当社は、財務報告に関わる内部統制報告制度に対応するため、リスク・コンプライアンス委員会の下部組織として、内部統制構築専門委員会を設置し、財務報告の適正性を確保するために必要な体制の構築・整備、内部統制の評価・改善をおこなっています。



### 内部統制システムの基本方針

当社は、経営環境の変化に適切且つ速やかに対応するため、意思決定の迅速化、透明性、公平性の維持を最優先することを念頭に置くとともに、コーポレート・ガバナンスが有効に機能することを目的として、会社法に基づく体制及び金融商品取引法が求める財務報告の適正性を確保するための体制として、以下の各体制を定めております。

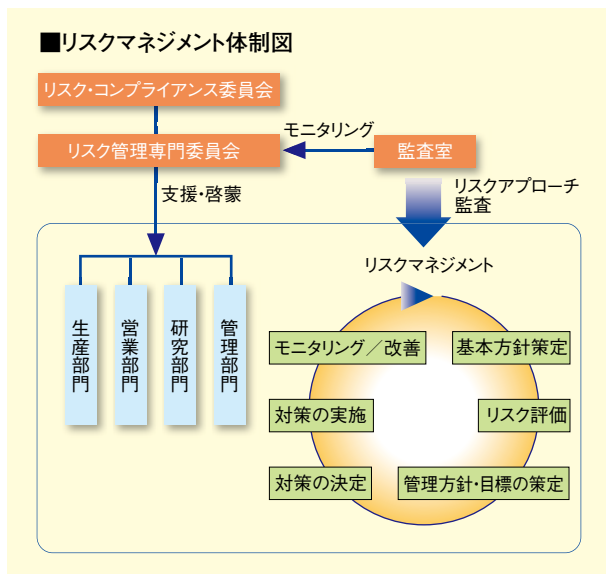
1. 取締役の職務の執行に関する情報の保存及び管理に関する体制
2. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
3. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
4. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
5. 株式会社並びにその親会社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制
6. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及び当該使用人の取締役からの独立性に関する事項
7. 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制
8. 監査役が監査を実効的に行われることを確保するための体制
9. 財務報告の適正性を確保するための体制

## リスク管理

当社事業の推進を阻害するさまざまなリスクの発生を未然に防止するとともに、リスクが顕在化した場合、損害の拡大防止や当社の社会的信用の維持を図るため、リスク・コンプライアンス委員会の下部組織としてリスク管理専門委員会を設置し、全社的なリスク管理体制を充実させています。

リスクの発生を未然に防止するために、当社の業務執行に係るリスクを生産、営業、研究、管理部門などの側面から多角的に検討した上で、必要な規定を策定し全社的に遵守する体制を構築し、その有効性を継続的に評価しています。

リスクが顕在化した場合に備え、損害の拡大防止、当社の社会的信用の維持を図るために、危機対応組織の編成などについて規定した危機管理規定、危機管理マニュアルを策定し、危機に際しては同規定に基づき適切に対処します。



## 制度や取り組みなど

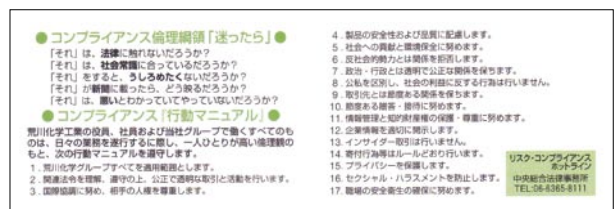
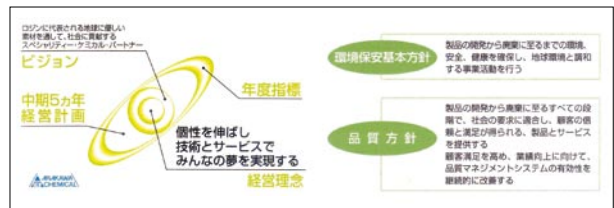
### リスク・コンプライアンスホットライン制度

上司の不正や組織構造上の問題で個別には解決できないリスクやコンプライアンスに関わる問題が発生し、通常ルートでは解決が難しい場合の非常手段として、リスク・コンプライアンスホットラインを開設しています。女性社員もためらうことなく通報できるように、通報窓口は女性窓口を含め、社内5カ所および社外の弁護士事務所に設けています。通報者は、通報したことにより不利にならないよう保護します。

## リスク・コンプライアンス体制の維持・推進

当社グループでは全従業員にコンプライアンス意識を浸透させるため、さまざまな活動をおこなっています。事例を一部紹介します。

(1)当社グループの全従業員は、経営理念や行動規範などを記載した携帯カードを常に所持し、コンプライアンスを意識した行動のよりどころとしています。



携帯カード

- (2)各部門は、定期的に自部門のリスク・コンプライアンス体制を評価するとともにその改善に努めています。リスク・コンプライアンス委員会は各部門の優れた取り組みをグループ全体に水平展開します。
- (3)月刊の社内報に「コンプライアンスコーナー」を設け、コンプライアンスに関する問題を分かりやすく解説し、コンプライアンス意識の向上を図っています。
- (4)定期的にコンプライアンス意識調査を行い、コンプライアンス意識の浸透や取り組みを評価し、その改善に活かしています。

## VOICE

### 製品納入リスクを減らすために

「リスク管理専門委員会」とは、常務直轄のリスク・コンプライアンス推進体制の下、全部門にまたがる委員会組織です。製造業である当社にとり災害・品質事故などで製品の納入に支障を生じることが最大のリスクであり、とりわけ品質問題で信用を失うことは避けなくてはなりません。開発に集中するあまり、品質がおざなりにならないようISO9001のシステム改変を手掛けてきました。その成果が表れてくることを楽しみにしています。



開発推進部 品質管理グループ  
佐野 義和

# お客様とのかかわり

お客様に満足していただける企業として、荒川化学グループは、製品への品質保証を強化するとともに、誠実に情報公開をおこなっています。

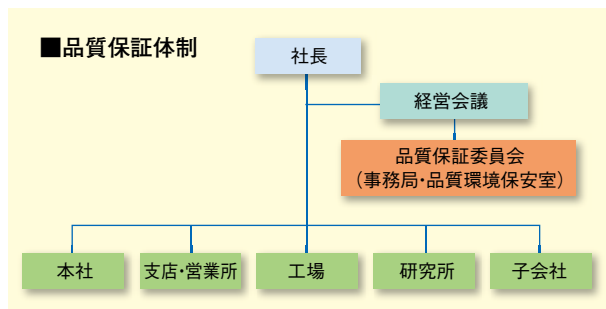
## 品質保証、お客様満足

満足していただけることが、企業としての使命です。

### 品質保証体制

#### 品質保証委員会

荒川化学グループでは、品質担当役員を委員長とし、関連部門の代表者（生産・研究・資材・営業・品質保証）をメンバーとする品質保証委員会を定期的に開催しています。この会議では、品質保証体制に関わる活動実績の報告および計画を審議して、荒川化学グループの品質向上に努めています。



### 品質方針

・製品の開発から廃棄に至るすべての段階で、社会の要求に適合し、顧客の信頼と満足が得られる、製品とサービスを提供する

2003年12月1日 取締役社長 末村 長弘

・顧客満足を高め、業績向上に向けて、品質マネジメントシステムの有効性を継続的に改善する

2010年6月18日 品質担当役員 常務取締役 眞鍋 好輝

### クレームへの対応

顧客からの品質クレームに迅速的確に対応するため、品質クレーム処理基準を定めて運用しています。これは、顧客に信頼感を与え、当社の信用を維持するとともに、製品の品質および関連する業務を改善することを目的としています。

### 品質監査

品質保証規定に基づき、品質環境保安室が毎年、荒川化学、製造子会社、製造委託先、原材料メーカーの品質監査を実施しています。その結果を元に、改善に関する命令・勧告・助言をおこない、安定した品質の製品をお客様に提供できるよう努めています。

### ISO9001

荒川化学は、工場ごとに取得していたISO9001を2008年3月に全社に拡大統合することで、品質保証体制を強化し、品質マネジメントシステムの改善に取り組んでいます。荒川化学グループの各国の製造子会社もISO9001による品質保証体制を構築しています（表参照）。

荒川化学グループは、立地する国は違っても、同じ規格で品質を保証する体制を整え、お客様に満足いただける製品を提供できるように努めています。

### 顧客満足度調査

ISO9001活動の一環として、顧客満足度を調査しています。具体的には、苦情件数の調査、市場シェア調査、訪問頻度調査など、色々な指標を用いて、顧客満足度を測定し、お客様に満足していただけるよう活動しています。

#### ■荒川化学グループのISO9001認証取得状況

社名	登録番号	認証取得日	維持審査実施日
荒川化学	JQA-0788	1995年2月17日	2010年8月4-6日 2011年2月15-17日
ベルノックス	JQA-1441	1996年11月1日	2010年10月29日
高圧化学工業	JQA-QM5263	2000年9月14日	2010年7月20日

(海外子会社)

台湾荒川化学	TW97/11053QA	1997年10月21日	2010年5月28日 2010年11月19日
広西梧州荒川	0302Q10509R1M	1999年11月23日	2010年8月26日
荒川ケミカル(タイ)	AJA02/5261	2002年6月13日	2010年4月28日
廈門荒川化学	206811	2007年1月15日	2010年10月14日
南通荒川化学	00107Q12555ROS/3200	2007年7月27日	2010年6月28日

## VOICE

### 市場シェア調査(顧客満足度)の活かし方

「顧客満足度はシェアに反映する」との考えから、毎年一定月に市場シェア調査を実施し、業界全体のニーズの把握につなげています。調査から市場動向の変化を読み取り、当社の商品群の構成を変えたり、研究・営業と連携し新しい提案をおこなったり、またそれらの実績検証としてシェア調査の数字を活用しています。調査の精度がユーザーへの深掘度の目安にもなっており、目的を持って訪問する姿勢へつながっています。



製紙薬品事業部 営業部  
立屋敷 晋



## ■化学製品の情報提供

国際連合から勧告されたGHS(化学品の分類および表示に関する世界調和システム)では、世界的基準であるルールに従って製品を危険有害性ごとに分類し、その情報をラベルの表示や製品安全データシートにより提供することが示されています。

荒川化学グループは、これに対応し、お客様に安全にお使いいただけるよう情報提供に努めています。

## 製品安全データシート(MSDS)

取り扱いに注意を必要とする特定化学物質(PRTR法)や通知対象物質(労働安全衛生法)を含有する製品については、法律でお客様への製品安全データシート(MSDS)の提出が義務付けられています。

荒川化学グループは、法で義務付けられている化学物質が含まれる製品のみならず、すべての製品についてGHSに対応したMSDSを整備し、提供しています。



製品安全データシート

## 製品ラベル

GHSに従ったラベルは、日本では労働安全衛生法改正により、使用が開始されました。荒川化学グループでは法令に従い、GHSに対応した製品ラベルを提供しています。



製品ラベル

## ■顧客認定制度

電子機器メーカー各社はグリーン調達基準を定めています。大阪工場、富士工場、小名浜工場および研究所が、ソニー(株)の環境保全推進活動の一環である「グリーンパートナー環境品質認定制度」に基づき、認定されています。

最近では、お客様から「グリーン調達基準」への適応を求められる例が増えていますが、荒川化学グループではそれをクリアしています。

## 緊急連絡カード(イエローカード)

化学製品輸送時の万一の事故に備えて、緊急連絡カード(イエローカード)をタンクローリーの運転手に携行させています。イエローカードは、(社)日本化学工業協会の指針に従って作成したもので、事故発生時の応急措置、災害拡大防止措置や通報内容を明記したものです。運送会社への教育をおこなうとともに、運転手に携行の徹底を図っています。また、容器・包装品につけるラベルに指針番号や国連番号を追加表示した「容器イエローカード」にも対応しています。



イエローカード(表)



(裏)

## VOICE

### 顧客認定制度(グリーンパートナー)への対応

地球環境と人体に著しい影響を持つ物質について管理レベルを明確にし、地球環境保全および生態系に対する影響を軽減することを目的としたソニー(株)の独自制度が「グリーンパートナー環境品質認定制度」です。この認定制度の取得にさまざまな対応をおこないました。新たに「環境管理物質チェックリスト」を導入し、対象設備



光電子材料事業部  
研究開発部  
小谷野 浩壽

で生産する全品目について対象物質の含有調査や「グリーン規定」も制定しました。中でもサプライヤーからの「不使用証明書」の入手には大変苦労しました。化学メーカーである当社では環境物質管理が浸透しているのですが、他業種メーカーにはまだまだなじみが薄いためです。

しかし、このような苦労があったからこそ、認定されたときには非常に大きな達成感がありました。そして同時に認定はあくまでもスタートライン、本当に大変なのはこれからだという身の引き締まる思いもありました。グリーンパートナーとして認定後は、職場全体で環境に対する意識が高まりました。現在では、環境対応なしに新製品の開発は成り立たないという意識が浸透しています。

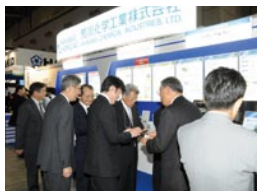


## 情報公開

企業活動の情報提供に取り組んでいます。

### JPCA Show 2010 に出展

2010年6月2日から3日間、東京ビックサイトで開催された「第40回国際電子回路産業展(JPCA Show 2010)」に出展しました。車載用鉛フリークリームはんだ「GSP」、鉛フリーはんだ対応洗浄剤「パインアルファシリーズ」など環境ニーズに対応した製品や、電子回路基板、太陽電池、ディスプレイなどに採用が期待されるハイブリッドポリイミドフィルム「ポミラン」、有機・無機ハイブリッド技術を応用したPETフィルム用アンカー剤やインプリント用配合液を展示しました。



### ASIA COAT + INK SHOW にてセミナー開催と出展

2010年9月29日から5日間、インドはムンバイで開催された「ASIA COAT+INK SHOW 2010」にポリウレタン樹脂のセミナー開催とブースを初出展しました。菓子袋などの印刷インキに使用されるポリウレタン樹脂は、インド市場で伸び率が年間30%という背景もあり、「Arakawa Polyurethane Resin For Gravure Ink」と題したセミナーは100人を超えるインキ関係者が参加し、ブースにも多くの方が訪れ盛況でした。



### 紙パルプ技術協会年次大会

紙パルプ技術協会主催の「第53回紙パルプ技術協会年次大会」が2010年10月6日から3日間開催され、「地球の未来を拓く紙作り…限りない技術革新と発展を求めて」をテーマに、全国の製紙会社や関連企業が新たな技術や製品を紹介しました。

当社は高凝集紙力剤「ポリテンション1000」、表面サイズ剤「ポリマロン1387」などを展示し、「紙中薬品の分布状態の分析(Ⅲ)～両性紙力剤のパルプ繊維への定着状態の可視化～」と題した講演は、立ち見となるほど盛況でした。



### 「e-よこ逍遥～東横堀川界限そぞろ歩き」にて荒川歴史館を公開

2010年3月26日から10日間開催された大阪市の東横堀川水辺再生協議会(e-よこ会)主催の「e-よこ逍遥～東横堀川界限そぞろ歩き」に、3月27日と4月3日の2日間「松やにミュージアム」として荒川歴史館を公開しました。生薬商「玉屋」にはじまり、ロジン(松やに)化学のパイオニアとしての135年の当社の歴史を紹介しました。



### 日本接着学会技術賞を受賞

2010年6月24・25日に、関西大学100周年記念会館で開催された「第48回日本接着学会年次大会」にて、エポキシ樹脂とシリカとのハイブリッド材料に関する研究が接着技術の向上に貢献したとして、日本接着学会賞技術賞を受賞しました。

## VOICE

### 接着技術を通じて社会貢献を

光電子材料事業部 研究開発部  
合田 秀樹

接着・粘着剤などに関する科学の進歩と技術の向上、普及に寄与するための団体である日本接着学会で、当社の接着技術への貢献が認められたことを大変うれしく思います。受賞記念講演での聴衆の関心の高さからも当社が高く評価されていることが実感でき、今後も接着技術を通じた社会貢献にますます努力していきます。



受賞講演(合田 秀樹)



受賞メンバー

### インターネプコン・ジャパンに出展

2011年1月19日から21日の3日間、東京ビックサイトで開催された「インターネプコン・ジャパン展示会」に出展しました。最先端実装技術における車載用ソルダーペーストなどの素材やLED製造工程を中心とした製品群の紹介をおこない、当社ブースへは、3日間で約1,000名と過去最高の来場者数となり、大盛況のうちに終了しました。



# 従業員とのかかわり

「個性を伸ばす」という経営理念を実践し、社会に貢献できる「人財」育成と「みんなの夢を実現する」職場づくりに力を入れています。

## 人財の育成・活用

「働きがいのある会社」、「働きやすい職場」を目指しています。

### ■教育制度の充実

社員の自己実現、可能性の追求と、会社が必要とする能力、要件とのマッチングを図り、社会に貢献する「人財」を育てるための教育制度の充実を進めるとともに、社外セミナーや通信教育など積極的な受講支援をおこなっています。具体的には、次のような教育制度を導入しています。

- ・階層別研修:新入社員、2~3年目社員、新任管理職を対象としたセミナー
- ・職種別研修:営業、研究、生産別セミナーおよびISO9001内部監査員養成セミナー、語学セミナー
- ・通信教育:語学、各種資格取得講座など本人希望で受講、受講料の7~8割を会社負担
- ・留学制度:大学(大学院含む)や研究機関への留学

また、国内外でグローバルに活躍できる人材開発のために、2004年に会社と社員双方の意思を尊重した人財育成制度として社内公募制度をスタートし、毎年1~2名が北米・中国などの大学への留学や中国グループ会社での研修をおこなっています。



研修風景:中国語語学セミナー

## VOICE

### 語学だけに留まらない貴重な経験

社内公募制度を利用して中国の華東師範大学で中国語や中国文化について学びました。現地では経済発展のスピードを肌で感じる事ができ、またそれに伴う社会問題も多く見ることができます。授業以外にも現地の人と積極的に交流する機会が、視野を広げる貴重な経験となっています。この経験を活かし、中国で幅広い業務において活躍したいと考えています。



南通荒川化学工業有限公司  
市場戦略部  
野村 浩

### ■貢献主義人事制度の充実

働きがいを持つことでより高い成果を上げるため、2005年度よりマネジメントクラス(管理職)全員を対象に貢献主義(成果主義)人事制度を導入しました。報酬は年俸制として職務給(給与)と成果給(賞与)で構成し、成果給は業績に連動する制度としています。また、成果主義の問題点克服のため、数値目標だけでなく社員の育成や成長を評

価の項目に盛り込んでいます。メンバークラス(非管理職)についても、「働きがいのある会社」「喜んで働ける会社」を目指し、育成を重視したメンバークラス貢献主義人事制度を2008年度より導入しました。

### ■高齢者への対応

定年退職者の経験・能力を活かすため、60歳以降も健康で働く意欲があり、かつ労働条件で会社と合意できた場合は、65歳まで働くことができる継続雇用制度を設けています。また、定年退職を迎える社員を対象に、退職後の生活設計を支援するための情報提供をおこなうセミナーを実施しています。

#### ■荒川化学単独人員構成

	人 数		
	2009年3月末	2010年3月末	2011年3月末
従業員数	679	700	713
内訳:男性	623	644	657
女性	56	56	56

#### ■雇用実績

	人 数		
	2008年	2009年	2010年
高齢者継続雇用	27	27	23
障がい者雇用	10	10	9

### ■障がい者への対応

障がい者の方の採用については新卒採用、中途採用を含めて実施しています。今後も、職場環境を整備して、職場・職域の拡大を進め、雇用を推進していきます。

### ■育児・介護休業法改正への対応

2003年7月に公布された「次世代育成支援対策推進法」に基づき、仕事と家庭の両立を支援するための行動計画を策定し、育児・介護休業法改正の趣旨に沿い、社員就業規則を改正しました。女性社員の採用についても積極的に取り組んでいます。

### ■退職金・企業年金制度の充実

定年退職後も当社の一員であるという考え方のもと、退職金・企業年金制度の改革をおこないました。新制度は貢献に応じて評価する貢献主義人事制度と連動しており、また個人のライフスタイルに合わせて多様な選択ができる制度で、定年退職後の個人生活を従来にもまして支援していきます。

### ■インターンシップ制度

高校・大学の学生に荒川化学での働き方が体験できるインターンシップ制度を実施しています。実際の仕事を通して、将来のキャリアプラン形成を支援しています。

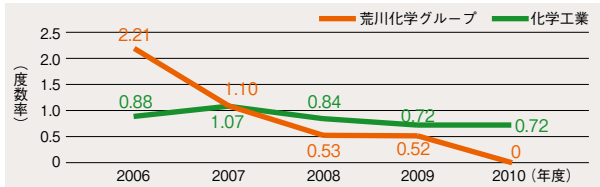
## 労働安全衛生活動

安心・安全で快適な職場環境づくりに努めました。

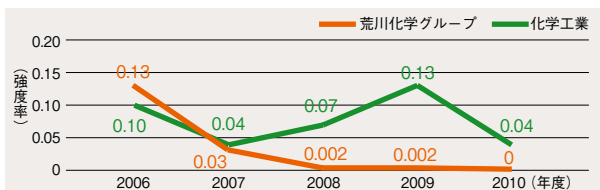
### 労働災害の状況

荒川化学グループでは、環境保安基本方針(P7参照)に基づく「保安管理システム」を2009年度より運用開始して災害防止に取り組んでいます。2010年度の休業災害は0件でした。2011年度も災害事故ゼロを目標に保安管理システムの運用を充実させていきます。

#### 労働災害度数率グラフ



#### 労働災害強度率グラフ



度数率=労働災害による死傷者数/延労働時間数 × 1,000,000

強度率=労働損失日数/延労働時間数 × 1,000

化学工業の労働災害度数率と労働災害強度率は以下の出典による。

出典:厚生労働省「平成22年労働災害動向調査(事業所調査(事業所規模100人以上)及び総合工事業調査)結果の概況」(平成23年4月26日発表)

## VOICE

### 「乳がんセミナー」を受講して

今回は初参加でしたが、和やかなムードで始まり、リラックスしてお話を聞きました。しかし講演が進むにつれ、乳がんの怖さがひしひしと伝わってきて、実際に患者の方のお話などは聞いているのが辛くなるほどでした。今や女性がかかるがんの1位となっている乳がん。セミナーを受けるまでは、乳がん検診も「いつか行こう」と思う程度でしたが、お話を聞いて、乳がんだけでなく他の女性がかかりやすい病気に関しても、検診に行くなど予防に努めなければいけないと思うようになりました。

今回のセミナーを受け、自分の身体にもっと関心を持ち、自分自身で守らなければという意識が高まりました。



化成品事業部 国際部  
渡瀬 史子

## 健康管理

荒川化学グループでは、法に定められた健康診断の実施とともに衛生講話等を開催して健康増進に努めています。

2011年度からは前立腺検診と乳がん・子宮がん健診を会社負担で実施しています。



本社での乳がんセミナー

### 健康管理実施状況

実施日	事業所	項目	内容
2010年6月24日	大阪工場	医療講演会	熱中症
2010年8月10日	水島工場	衛生講話	生活習慣病
2010年8月20日	小名浜工場	健康相談会	健康診断有所見者
2010年9月16日	本社	医療セミナー	乳がん
2010年10月14日	本社	安全運転講習会	エコ安全ドライブの実践
2010年10月25日	水島工場	交通講話	交通安全
2010年11月2日	大阪工場・研究所	医療講話	メンタルヘルス
2010年11月24日	富士工場	衛生講話	メンタルヘルス
2011年1月17日	本社	研修会	メンタルヘルス
2011年1月25日	ベルノックス	衛生講話	ノロウイルス
2011年1月28日	研究所・大阪工場	研修会	メンタルヘルス
2011年2月9日	研究所・大阪工場	健康講話	長時間労働
2011年2月21日	高圧化学	健康講話	ストレスマネジメント

## 安全衛生表彰

荒川化学グループの各事業所では、安全衛生活動に対する長年の貢献を評価されて、多くの社員が関係団体から表彰されました。

### 安全衛生表彰実績

実施日	事業所	表彰団体	受賞
2010年4月23日	富士工場	日本商工会議所・富士商工会議所	優良従業員表彰(5名)
2010年9月24日	高圧化学	大阪市大正消防署	消防功績顕彰(企業)
2010年10月19日	高圧化学	大正工業会	優良社員表彰
2010年10月28日	ベルノックス	秦野市商工会議所	優良工場表彰
2010年10月29日	高圧化学	経済産業省	高圧ガス保安経済産業大臣表彰(製造所)
2010年11月10日	高圧化学	大阪市工業会連合会	優良社員(1名)
2010年11月26日	本社・大阪工場	大阪府工業協会	優良従業員表彰(2名)
2010年12月15日	高圧化学	大阪府高圧ガス安全協会	優良従業員表彰(1名)



経済産業大臣から表彰される高圧化学 河村社長



秦野市長から表彰されるベルノックス 取締役



## 教育訓練・防災訓練

全従業員のステップアップを目指しています。

### 環境教育

環境マネジメントシステムの年間計画に従って環境教育を実施しています。2010年度、環境教育に費やした時間は、延べ764時間でした。

また、教育研修制度の一環として通信教育講座を開設しており、修了により補助金が支給されます。2010年度は、環境に関わる「知らないではすまされない!環境&エコ100」などが開講され、品質・環境・保安関連では67名が受講しました。その他、43名が資格取得のために、「公害防止管理者国家試験受験」などの講座を受講しました。

#### ■環境教育実施状況 (時間)

教育内容	2009年度	2010年度
省エネ教育	166	108
ISO1400教育	696	534
自覚教育	281	122
合計	1,143	764

### 資格取得

荒川化学グループで必要とする環境・保安に関わる資格を表に示します。法律で定められている人員を充足していますが、新入社員、異動・転入者を主体にして、資格取得の推進を図り、従業員のステップアップにつなげています。

資格名称	2009年度末	2010年度末
公害防止管理者	40	45
エネルギー管理士	9	9
エネルギー管理員	9	10
廃棄物処理施設技術管理者	7	10
特別管理産業廃棄物管理責任者	20	25
環境計量士	1	1
作業環境測定士	1	1
衛生管理者	21	22
ボイラー技士	179	189
危険物取扱者	661	728
高圧ガス製造保安責任者	90	93

### 防災訓練

化学メーカーとして多くの危険物を取り扱いおよび貯蔵していることから、想定される地震、津波、火災、漏洩事故などのリスクに対応するために、危機管理マニュアルを策定しています。事業所では年間計画を立てて防災訓練を繰り返し実施しています。

また、近隣他社や地域の消防署と合同訓練を計画して、地域と連携した防災訓練も実施しています。実施後には実施結果を評価して次回の訓練に反映しています。

#### ■2010年度防災訓練一覧表

実施日	事業所名	内容
2010年4月30日	高圧化学	地震・津波防災避難訓練
2010年5月6日	徳島工場	夜間緊急通報訓練
2010年6月6日	大阪工場	鶴見消防署合同消防訓練
2010年8月11日	高圧化学	火災・爆発防災訓練
2010年9月6日	富士工場	合同地震防災訓練(本社含む)
2010年9月6日	釧路工場	地震防災訓練
2010年9月7日	高圧化学	AED救急救命講習
2010年10月13日	ベルノックス	消火訓練
2010年10月19日	水島工場	合同防災訓練
2010年10月20日	小名浜工場	総合地震防災訓練
2010年10月22日	ベルノックス	AED救急救命講習
2010年11月2日	東京支店	防災訓練
2010年12月23日	タイ荒川	防災訓練
2011年1月17日	大阪工場	地震想定防災訓練(研究所含む)



水島工場／合同防災訓練



ベルノックス／AED救命講習



大阪工場／総合防災訓練



タイ荒川／防災訓練

## VOICE

### 総合防災訓練実施と2011年3月15日の富士宮地震を体験して

当工場では20年以上年2回総合防災訓練をおこなっており、化学メーカーの責務として、危険物関連施設からの火災や流出事故発生などを想定し実施しています。2010年度は9月6日、東海地震注意情報発令から地震発生を想定して、本社との合同訓練を実施し有事の際の危機管理体制の有効性を確認しました。その後2011年3月15日午後10時31分、静岡県富士宮市で震度6強の富士宮地震が発生。自宅で強い揺れを感じましたが、会社で常に防災訓練をおこなってきたことで地震発生時も慌てず行動できました。これまで近隣他社や消防署、工場と本社と合同で訓練をおこなってきましたが、周囲と協力し合うことがいかに重要かを改めて感じました。



富士工場 製造第2課  
後藤 正敏



# 株主・投資家とのかかわり

荒川化学グループは、IR・広報活動を通じ、株主や投資家の皆様からのご理解、ご信頼にお応えできるように努め、企業価値の持続的な向上を目指しています。

## IR活動

アナリスト・機関投資家向け決算説明会を年2回開催し、社長自らが、事業内容や経営成績、中期経営計画の進捗、今後の展望について説明するとともに、参加していただいた皆様からのさまざまなご質問にお答えしています。

また、個人投資家の皆様に向けては当社の事業内容へのご理解を深めていただくため、「日経IRフェア2010」に出展しました。当社製品が日常生活で使われている具体的な実例を展示物で示すとともにロジンや超淡色ロジンの実物も展示し、当社社員がご来場いただいた皆様に丁寧に説明しています。



決算説明会風景



「日経IRフェア2010」出展風景

## VOICE

### フェアやマツタロウを通して親しみやすい企業に

当社の製品は身近なものに多く使われているのですが、残念ながら一般の方はほとんどご存じありません。IRフェアでは、新聞やチューインガム、携帯電話などを展示して、当社の製品がどんな風に使われているのかをご説明しました。生活の色々な場面で、知らない間に当社の製品に触れていることに驚かれる方が多かったです。ブースに来ていただいた方にお渡ししたキャラクターのマツタロウグッズは、ブログで紹介されるなど好評でした。

また、ホームページもリニューアルし、見やすく内容も充実しました。マツタロウの親しみやすさが、当社の親しみやすさへの一助になればよいと思っています。



経営企画室  
笠原 由起子

## 広報活動

株主や投資家の方々を対象とした、さまざまな資料を提供しています。ホームページでは決算短信をはじめとする適時開示資料、有価証券報告書、決算説明会資料などを速やかに掲載しています。

また、当社グループのことを幅広くご理解いただくため、当社と馴染みの深い松の木をモチーフとしたキャラクター「マツタロウ」による事業紹介や荒川歴史館を紹介するコーナーなどを設けています。



ホームページでの情報提供例  
<http://www.arakawachem.co.jp/>



キャラクター「マツタロウ」の各種ノベルティグッズ

## ステークホルダーへの貢献

当社グループでは、すべてのステークホルダーから信頼される企業となるため、顧客ニーズや社会の変化に迅速な対応が可能となる事業基盤の構築を第2次中期5ヵ年経営計画の基本方針に掲げ、グループ最適の経営を目指しています。

- コーポレートガバナンス体制の更新・改革による、企業価値の維持・向上
- 取引先と連携したサプライチェーンマネジメント体制の構築
- 品質・環境・保安全管理システムの構築
- 当社グループに適した社会貢献の推進

## 株主還元策

当社は、安定的かつ継続的な配当を維持しつつ、積極的な株主還元策に取り組むことを基本方針としています。配当につきましては、連結配当性向30%程度を目処として、安定的な配当水準の維持に努めていきます。

# 地域・社会とのかかわり

荒川化学グループは学術、文化、地域貢献などさまざまな活動を通じ、地域とともに歩む、信頼される企業を目指します。

## ■ 関西外国語大学、梧州学院、南京林業大学、に奨学金を授与

荒川化学グループでは、ロジン(松やに)の産地としてゆかりの深い中国との国際交流や産業の発展に貢献できる人材の育成に貢献するため、関西外国語大学「関西外大・荒川化学・戸毛敏美奨学金」、中国での梧州学院及び南京林業大学「南京林業大学紙パルプ基金会」を通じて学生への奨学金による援助活動をおこなっています。



梧州学院奨学金授与式



南京林業大学奨学金授与式

## ■ 中国・大地震に対して義援金を寄付

荒川化学グループは、2010年4月に発生した中国青海省玉樹地震の被災地区に対する復旧・復興支援の一助として、梧州市赤十字社を通じて義援金100万円を寄付しました。



義援金の贈呈

## ■ 神農祭

当社本社近くの大阪市中央区道修町には、日本の薬の神「少彦名命」と中国の薬の神「神農氏」をお祭りしている少彦名神社があります。この神社で古くから続く『神農祭』という祭りが、2010年も11月22・23日に盛大におこなわれました。神社前の通りには、製薬会社が自社製品の薬の箱をぶらさげたのぼりが数多くならび、薬の町・道修町ならではのユニークな光景が見られます。当社は昔から氏子として深く関わりがあり、無病息災・家内安全のお守りである「張り子の虎」が飾られた笹をいただき、1年の健康をお願いしています。



## ■ 献血活動

日本赤十字社主催の『献血キャンペーン』などの機会に、多くの従業員が献血をおこないました。



富士工場での献血

## ■ 研究所の緑化活動、朝顔グリーンカーテン

景観の美化や省エネルギー効果にも期待して、研究所(大阪市)では、屋上と壁面の緑化に取り組んでいます。



## VOICE

### 来年こそ、朝顔を満開に。

2010年7月には朝顔の葉が生い茂ってグリーンカーテンになりましたが、害虫に悩まされ、開花せずにしぼんでいく蕾もありました。大阪市ゆとりみどり振興局主催の『緑のカーテン&カーペットコンテスト』の「その他部門」において優秀賞を頂いたことを励みにして、来年こそは朝顔の花を満開にさせたいと考えています。



開発推進部 濱村 智章

## ■ 地域の美化・清掃活動

多くの従業員が積極的に参加し、事業所周辺地域のゴミ収集や道路脇の除草、側溝の清掃などをおこないました。



富士工場/6月



小名浜工場/6・10月



筑波研究所/6月



ペルノックス/7月



水島工場/9月



本社/11月



高圧化学/11月



大阪工場/11月



研究所/11月



## 南通荒川化学工業



総経理：中島 正人



所在地：中国江蘇省南通市  
 経済技術開発区江河路18号  
 設立：2004年4月  
 敷地面積：49,942m<sup>2</sup>  
 従業員：38名

当社は上海を中心とした長江デルタ地域の南通市国家級経済技術開発区に、独資で2004年4月設立、2005年12月25日操業を開始しました。約5万m<sup>2</sup>の用地で紙力増強剤、表面サイズ剤など製紙用薬品を生産し、中国内の製紙会社に販売しています。紙の品質向上の他、製紙会社の排水負荷低減、乾燥エネルギーの低減などにも寄与しています。

当社は2007年7月ISO9001、2009年10月ISO14001を認証取得し、2010

年6月には品質・環境マネジメントシステムの統合をおこない、一元的な管理体制として効率化を図っています。さらに、2010年11月南通市の安全生産標準化3級の認証を取得しました。

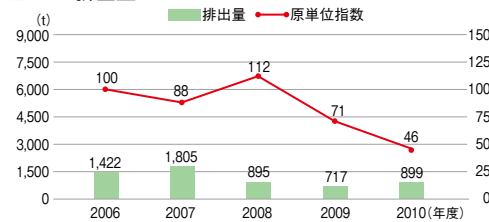
品質、環境、安全のシステムを日々の仕事の中に活用し、地球環境への影響を最小限化する生産活動をおこなって、地域社会への貢献、顧客に高品質の製品やサービスを提供するよう全社員で取り組んでいます。

### ●環境パフォーマンス

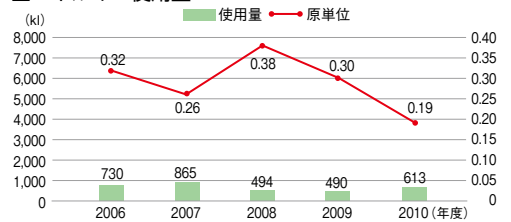
インプット	エネルギー	電力(GWh)	1.4
		化石燃料(千kl)	0.3
		合計(千kl原油換算)	0.6
水資源	水道水(千m <sup>3</sup> )	28.3	
	工業用水(千m <sup>3</sup> )	0.0	
	地下水(千m <sup>3</sup> )	0.0	
アウトプット	大気への環境負荷	CO <sub>2</sub> (千t)	0.9
		COD(t)	1.0
	水域への環境負荷	SS(t)	0.1
		排水(千m <sup>3</sup> )	9.2
	産業廃棄物	社内発生量(t)	104.5
		工場排出量(t)	104.5
最終埋立量(t)		0.0	
製品(千t)		3.2	

### ●工場トレンド(研究所含む)

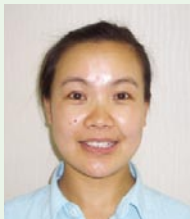
#### ■CO<sub>2</sub> 排出量



#### ■エネルギー使用量



### 私たちの環境活動

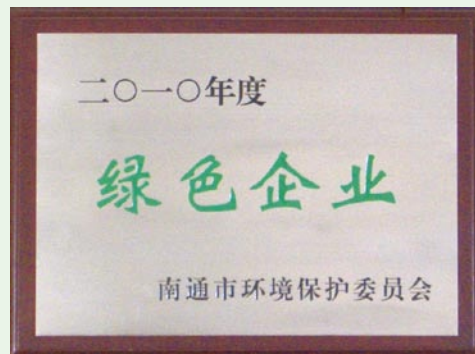


内部審査員：津野 真梅

私は内部審査員として品質・環境マネジメントシステムの統合、内・外部の審査、認証取得後の運用などに参画し、日々の仕事にも品質・環境マネジメントシステムを活用しています。

原料の調達から輸送、生産、製品の出荷に至るすべての仕事の中で、社員全員が省エネルギー、環境負荷物質の排出低減、廃棄物の分類管理、緊急事態の対応などの改善の意識を持って行動するよう努力しています。

社員一丸となった努力の成果として、南通市環境保護局による工業企業300社の環境行為評価で綠色等級企業40社(優良)の1社に選ばれたことは大きな自信と喜びになりました。



綠色等級企業の認定証

## 台湾荒川化学工業



総経理：三井 元

所在地：台湾基隆市六堵工業区  
工建南路4号  
設立：1967年5月  
敷地面積：7,362m<sup>2</sup>  
従業員：43名

当社は台湾北部にある基隆市街より内陸部に位置する六堵工業区内に位置します。雨の基隆と表現されるように年間降水量が多く、湿気が多い土地となっており日照時間も少ない気候です。

さて当社は2007年に創立40周年を迎え、歴史が長く製品構成、数量ともに時代の変遷を繰り返しています。設立当初は工業区周辺に住民の方々も少なく、また当時は発展途上の土地であることから産業発展を最優先し、走り続けてきました。

現在、台湾では社会全体が積極的に環境問題へ参加し、環境への意識も高くなり始めており、減炭素政策としての「温室効果ガス減量法」の策定が進められようとしています。

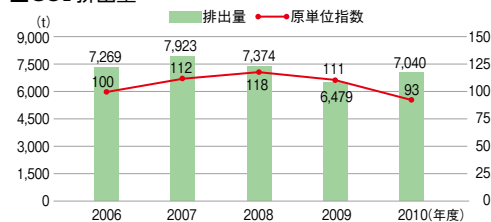
当社は2007年10月にISO14001を認証登録し、エコロジー、エネルギー、エコノミーを合言葉に企業成長とともに環境に優しい企業として積極的に温暖化対策、省エネルギーなど環境活動に取り組んでいます。

### ●環境パフォーマンス

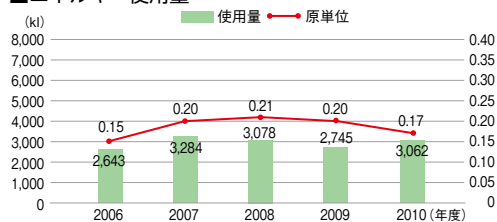
インプット	エネルギー		
	電力 (GWh)	4.5	
化石燃料 (千kl)	1.9		
	合計 (千kl原油換算)	3.1	
水資源	水道水 (千m <sup>3</sup> )	81.3	
	工業用水 (千m <sup>3</sup> )	0.0	
	地下水 (千m <sup>3</sup> )	0.0	
アウトプット	大気への環境負荷	CO <sub>2</sub> (千t)	7.0
	水域への環境負荷	COD (t)	6.3
		SS (t)	0.4
		排水 (千m <sup>3</sup> )	33.0
	産業廃棄物	社内発生量 (t)	197.0
		工場排出量 (t)	197.0
	最終埋立量 (t)	197.0	
製品 (千t)	17.9		

### ●工場トレンド

#### ■CO<sub>2</sub> 排出量



#### ■エネルギー使用量



### 私たちの環境活動



環境管理責任者：潘 扶磯

現在、具体的な活動として主なものは電気・蒸気使用量の削減で、冷却水の効率化、空気圧縮機の更新を進めています。また割り箸を使用しないという小さな無駄をなくす環境活動も実施しており、環境活動を工場全体で取り組むことで、さらなる成果を生むものと考えています。

緊急事態の対応については、基隆市政府との合同訓練の一環として毒劇物漏洩訓練を実施しました。当日は台湾市消防局をはじめ、警察、衛生、環保局などさまざまな行政の参加のもと実施しました。



毒劇物漏洩訓練



## 廈門荒川化学工業



総経理：角熊 隆司



所在地：中国福建省厦门市集美区  
杏林鎮杏北工業区薰任路10号  
設立：1996年8月  
敷地面積：30,208m<sup>2</sup>  
従業員：71名

当社は中国福建省の厦门市集美区にあり、廈門港、廈門空港、新幹線駅に20分以内という交通の便の良い位置にあり、1996年設立以来接着剤用樹脂、印刷インキ用樹脂を国内外へ供給しています。廈門市は年々発展し、コロンス島、南普陀寺院などの観光地も控え観光都市として交通、景観などの環境整備に力を入れていることがよく分かりますし、また、市、区の環境保護局、安全管理局の指導のもと、各企業で毎年環境、安全対策を強化しています。

当社では2006年に品質、環境、安全

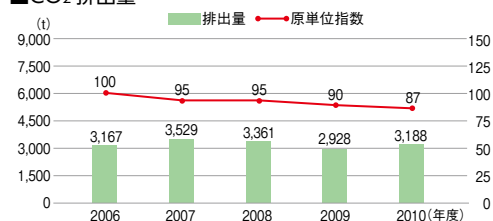
のISO取得後、毎年省エネルギー、環境改善の目標を立て活動をおこなっています。工場内でのエネルギー原単位の低減、労働環境の改善、外部環境負荷の低減はもとより、例えば包装グラビアインキ用のポリウレタン樹脂のノントルエン系製品への移行など、お客様の環境対応に積極的に対応しています。また安全面でも、国の規定により2009年に安全生産許可書、2010年は安全標準化3級を順次取得し、社内のレベルアップを図っています。

### ●環境パフォーマンス

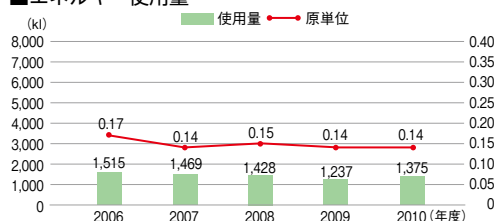
インプット	エネルギー	電力(GWh)	3.3
	化石燃料(千kl)	0.5	
合計(千kl原油換算)	1.4		
水資源	水道水(千m <sup>3</sup> )	16.4	
	工業用水(千m <sup>3</sup> )	0.0	
	地下水(千m <sup>3</sup> )	0.0	
アウトプット	大気への環境負荷	CO <sub>2</sub> (千t)	3.2
	水域への環境負荷	COD(t)	0.0
		SS(t)	0.0
		排水(千m <sup>3</sup> )	0.7
	産業廃棄物	社内発生量(t)	43.0
		工場排出量(t)	43.0
最終埋立量(t)		14.5	
製品(千t)		10.0	

### ●工場トレンド

#### ■CO<sub>2</sub> 排出量



#### ■エネルギー使用量



### 私たちの環境活動



安全管理責任者：彭 宗明

集美区では毎年安全管理局、消防隊主催で企業との合同防災訓練をおこなっており、過去当社でも実施しました。当日は安全管理局、消防隊、区の各企業60名以上の参列のなか、第3工場の建屋をい製造課担当者が室内より外部への放水、防液堤設置、負傷者運搬をおこない、消防隊は消防車、はしご車の2台での建屋への放水、消火作業を実演しました。



防災訓練の様子



## ペルノックス



環境管理責任者：水家 次朗

■所在地：神奈川県秦野市菩提8番地7 ■設立：1970年1月  
■敷地面積：21,840m<sup>2</sup> ■従業員：105名、協力会社員0名

2010年度は廃棄物量、電力使用量および洗浄溶剤使用量の削減に取り組んできましたが、2009年後半からの急速な景気回復、生産量の大幅な伸びにより目標には届きませんでした。しかし活動は大きな効果を上げ、しっかりと根付いたものとなっており、今後も継続していきます。2011年度の目的・目標の削減活動は、品質・環境一体となった活動へと方針を展開します。特に、製品中の環境負荷物質の削減、環境配慮型製品の開発拡大を目標に定め、生産工程における不適合の撲滅による製品廃棄量削減活動とともに推進していきます。

### ●環境パフォーマンス

インプット		
水資源	水道水 (千m <sup>3</sup> )	3.3
	工業用水 (千m <sup>3</sup> )	0.0
	地下水 (千m <sup>3</sup> )	0.0
原材料 (千t)		3.9
アウトプット		
大気への環境負荷	NOx (t)	0.0
	SOx (t)	0.0
	PRTR物質 (t)	0.8
水域への環境負荷	COD (t)	0.0
	SS (t)	0.0
	排水 (千m <sup>3</sup> )	3.3
PRTR物質 (t)		0.0
製品 (千t)		3.7

### ●身近な生物多様性

秦野市の木は昭和47年に指定された「さざんか」です。丹沢の美しい自然と澄んだ空気を大切にするため、生物多様性保全の思いを込め、菩提工場の道路沿いに植樹しています。

菩提工場のさざんか



## 高圧化学工業



環境管理責任者：糸井 泰

■所在地：大阪府大阪市大正区鶴町五丁目1-12 ■設立：1959年3月  
■敷地面積：8,970m<sup>2</sup> ■従業員：60名、協力会社員3名

2008年に環境省策定のエコアクション21認証取得、2009年度より改訂版の要求事項をいち早く取り入れ環境改善活動を実施しています。重油の撤廃をすでに達成し、ボイラーはすべて都市ガスに置換しました。現在はフォークリフトで使用するわずかなガソリンを残すのみで、環境負荷の大きい燃料の転換はほぼ終了しています。

さらなる環境負荷低減のためにエネルギー利用効率の向上にも取り組んでいます。また、新たに要求事項となった環境負荷物質の適正管理、製品製造時の環境配慮を加えた環境改善活動も実施していきます。

### ●環境パフォーマンス

インプット		
水資源	水道水 (千m <sup>3</sup> )	35.3
	工業用水 (千m <sup>3</sup> )	0.0
	地下水 (千m <sup>3</sup> )	0.0
原材料 (千t)		3.4
アウトプット		
大気への環境負荷	NOx (t)	1.1
	SOx (t)	0.0
	PRTR物質 (t)	0.4
水域への環境負荷	COD (t)	1.1
	SS (t)	0.4
	排水 (千m <sup>3</sup> )	35.3
PRTR物質 (t)		0.0
製品 (千t)		2.4

### ●身近な生物多様性

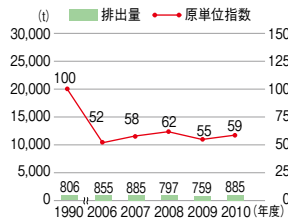
当社は三方を海に囲まれた港内埋立地という人工的環境内にあります。道路沿い、事務所周りには、生物多様性保全の思いを込めて、大正区の花であるつつじなどのさまざまな植樹をおこなっています。



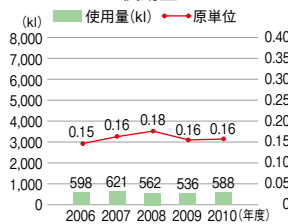
高圧化学工業の敷地

### ●工場トレンド

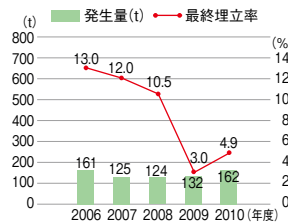
#### ■CO<sub>2</sub> 排出量



#### ■エネルギー使用量

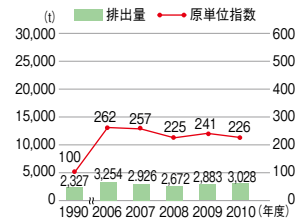


#### ■廃棄物発生量

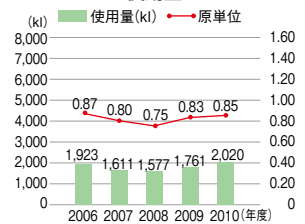


### ●工場トレンド

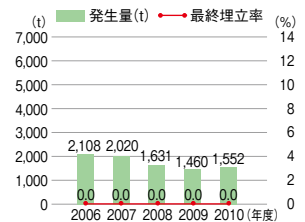
#### ■CO<sub>2</sub> 排出量



#### ■エネルギー使用量



#### ■廃棄物発生量



## 大阪工場(研究所含む)



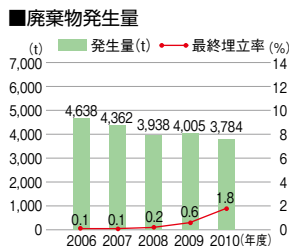
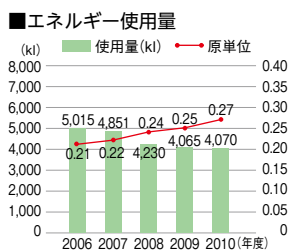
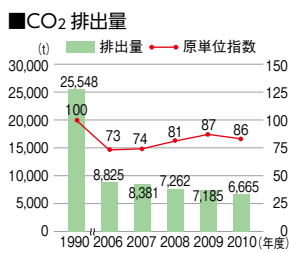
環境管理責任者：福森 章夫

■所在地：大阪市鶴見区鶴見1丁目1-9 ■設立：1936年11月  
 ■敷地面積：33,590m<sup>2</sup> ■従業員：322名、協力会社員21名

環境管理システムは研究所を含む大阪事業所として取り組み、省エネルギーやCO<sub>2</sub>、廃棄物削減に加えて、環境にやさしい製品の開発などの環境負荷低減活動をおこなっています。

2010年度は活動目標の項目をすべてクリアすることができ、特に新製品の開発において挙げた環境配慮型の3テーマは実用化され目標を上回る成果が得られています。当工場は住宅地が隣接する都市型工場であり、最新の脱臭装置の導入や工事中の防音対策等により臭気や騒音の抑制に努め、安心と信頼を提供する地域共創工場を目指していきます。

### ●工場トレンド



### ●環境パフォーマンス

インプット		
水資源	水道水 (千m <sup>3</sup> )	29.1
	工業用水 (千m <sup>3</sup> )	119.3
	地下水 (千m <sup>3</sup> )	0.0
原材料 (千t)	18.0	
アウトプット		
大気への環境負荷	NOx (t)	0.4
	SOx (t)	0.2
	PRTR物質 (t)	0.2
水域への環境負荷	COD (t)	4.1
	SS (t)	3.2
	排水 (千m <sup>3</sup> )	90.6
PRTR物質 (t)	0.0	
製品 (千t)	33.5	

### 身近な生物多様性

2010年度に場内緑地を整備し面積を469m<sup>2</sup>増加しました。緑地には地域にふさわしい種(例:大阪市鶴見区の花“つばき、はなみずき”など)を配慮した植生を進め、今後も緑豊かな工場を目指します。



増設した緑地

## 富士工場

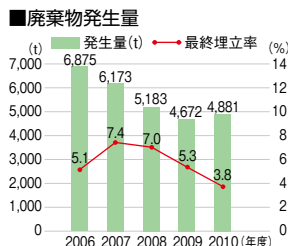
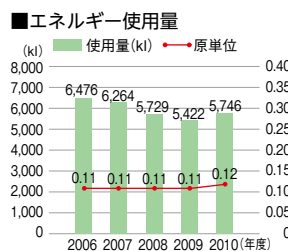
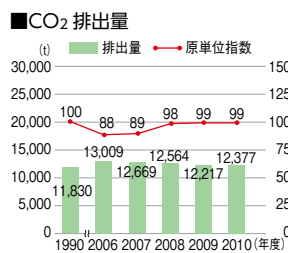


環境管理責任者：藤原 勝博

■所在地：静岡県富士市厚原366-1 ■設立：1959年12月  
 ■敷地面積：39,040m<sup>2</sup> ■従業員：85名、協力会社員18名

2010年度は環境省の「自主参加型国内排出量取引制度(JVETS)第6期」に参加し、ボイラー燃料をLPGから都市ガスに全面転換した上で、高効率小型貫流ボイラーへ全面更新しました。また、事務棟の風呂用給湯設備を蒸気加熱方式から電気ヒートポンプ方式へ更新しました。これら一連の設備改善で960t・CO<sub>2</sub>/年を削減することができました。引き続き、省エネルギー、環境負荷の低減、産業廃棄物の削減を継続的に実施し、また、安全・防災に関する活動をより活性化させ、地域社会から信頼される工場を目指します。

### ●工場トレンド



### ●環境パフォーマンス

インプット		
水資源	水道水 (千m <sup>3</sup> )	26.1
	工業用水 (千m <sup>3</sup> )	120.2
	地下水 (千m <sup>3</sup> )	375.7
原材料 (千t)	41.1	
アウトプット		
大気への環境負荷	NOx (t)	8.8
	SOx (t)	1.2
	PRTR物質 (t)	5.4
水域への環境負荷	COD (t)	9.2
	SS (t)	2.8
	排水 (千m <sup>3</sup> )	238.9
PRTR物質 (t)	0.0	
製品 (千t)	86.0	

### 身近な生物多様性

富士工場各所には、富士市民の木でもある「くすのき」があります。現在は場内工事により枝を切っている状態ですが、今後、場内へ植樹する際には、地域の生物多様性を考慮していきます。



富士市民の木「くすのき」



## 水島工場



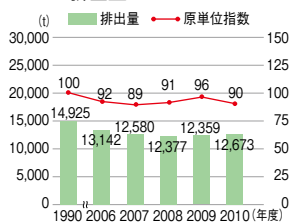
環境管理責任者：大島 信幸

■所在地：岡山県倉敷市松江4丁目1-1 ■設立：1970年6月  
 ■敷地面積：74,022m<sup>2</sup> ■従業員：55名、協力会社員11名

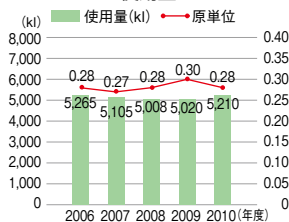
2010年度の環境管理活動は、省エネルギー、排水負荷の低減、騒音に対する改善、CO<sub>2</sub>削減について取り組んできました。省エネルギーでは蒸気のトラップ管理、環境対策では定修工事時に発生する騒音への配慮、CO<sub>2</sub>削減では輸送のモーダルシフトを進め、成果を上げることができました。また、環境ISO審査では、製造プロセス見直しによる省エネルギーの成果をはじめ3件の活動がグッドポイントとして評価され、今後も設備の高効率化、技術の向上を視点に省エネルギー活動を進めていきます。

### ●工場トレンド

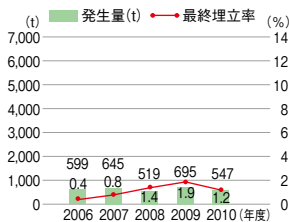
#### ■CO<sub>2</sub> 排出量



#### ■エネルギー使用量



#### ■廃棄物発生量



### ●環境パフォーマンス

インプット		
水資源	水道水 (千m <sup>3</sup> )	31.1
	工業用水 (千m <sup>3</sup> )	96.3
	地下水 (千m <sup>3</sup> )	0.0
原材料 (千t)	28.4	
アウトプット		
大気への環境負荷	NOx (t)	1.0
	SOx (t)	0.0
	PRTR物質 (t)	0.2
水域への環境負荷	COD (t)	0.6
	SS (t)	0.2
	排水 (千m <sup>3</sup> )	99.5
PRTR物質 (t)	0.0	
製品 (千t)	34.5	

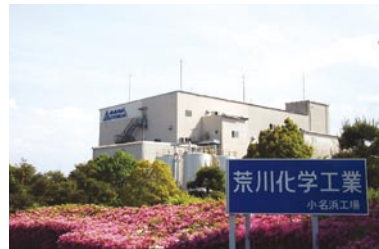
### ●身近な生物多様性

工場内から出る廃水を処理した水を貯める貯水槽には、自然に住みついたメダカが生息しています。排水処理施設を管理して育てていきます。



メダカが生息する貯水槽

## 小名浜工場



環境管理責任者：石井 秀樹

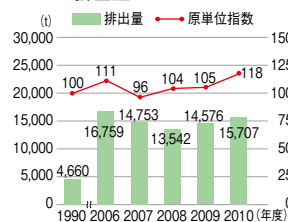
■所在地：福島県いわき市泉町下川字大廻399-5 ■設立：1989年11月  
 ■敷地面積：90,320m<sup>2</sup> ■従業員：66名、協力会社員18名

2010年度は省エネルギーと廃棄物削減を目標としました。省エネルギーでは製造時間短縮による機器停止、廃棄物削減では従来廃棄していた洗浄溶剤を売却、その他製造中の排気を効率良くすることで臭気対策、廃液の液面監視設備導入、環境リスクの特定と対策などの汚染の予防に取り組みました。中でも廃棄物削減は目標32tに対して54tと成果が大きく、臭気対策でも作業環境が大きく改善されました。

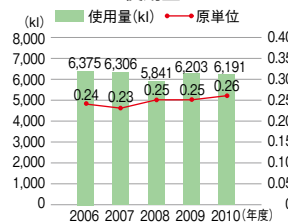
いわき市ははまだ震災からの復興半ばですが、これからも地域社会に貢献して1日でも早い復興の手助けをしたいと考えます。

### ●工場トレンド

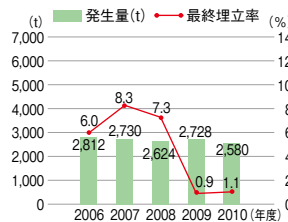
#### ■CO<sub>2</sub> 排出量



#### ■エネルギー使用量



#### ■廃棄物発生量



### ●環境パフォーマンス

インプット		
水資源	水道水 (千m <sup>3</sup> )	7.9
	工業用水 (千m <sup>3</sup> )	477.8
	地下水 (千m <sup>3</sup> )	0.0
原材料 (千t)	25.0	
アウトプット		
大気への環境負荷	NOx (t)	11.2
	SOx (t)	3.7
	PRTR物質 (t)	2.5
水域への環境負荷	COD (t)	1.1
	SS (t)	0.5
	排水 (千m <sup>3</sup> )	98.3
PRTR物質 (t)	0.0	
製品 (千t)	33.5	

### ●身近な生物多様性

敷地内にカトムシなどが自然に生息する場所があります。過去の設備増設時に撤去されず残されており、今後も生物多様性の保全に配慮して見守っていきます。



カトムシ生息地



# サイト別活動報告

## 釧路工場



工場長：筒井 富士男

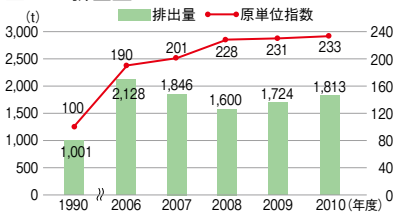


所在地：北海道釧路市大楽毛南1丁目2-68  
 設立：1968年8月  
 敷地面積：8,670m<sup>2</sup>  
 従業員：13名、協力会社員0名

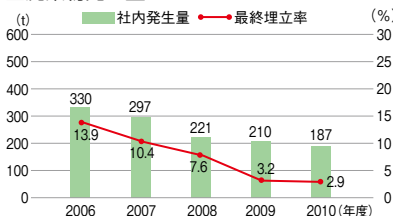
当工場は北海道唯一の生産拠点として製紙用薬品を製造しています。昨年度は省エネルギー活動として、反応釜攪拌モーターのインバーター化による電力削減や、工場建屋の保温強化工事をおこない、暖房用の燃料削減を図りました。釧路の冬は冷え込みが厳しく、保温工事により屋内の作業環境も改善されました。今後も安全を第一とし、省エネルギー活動に積極的に取り組み、地球にやさしい工場創りを目指していきます。

### ●工場トレンド

#### ■CO<sub>2</sub> 排出量



#### ■廃棄物発生量



## 徳島工場



工場長：丹羽 直樹

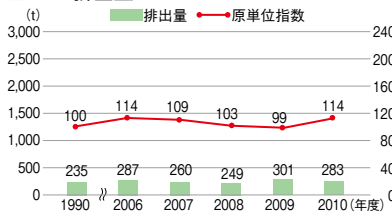


所在地：徳島県阿南市那賀川町中島1577  
 設立：1969年5月  
 敷地面積：5,160m<sup>2</sup>  
 従業員：6名、協力会社員0名

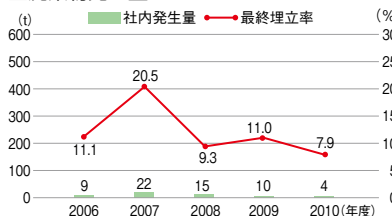
当工場は、LEDの一大産地で、四国で最初に太陽が昇る町として「光のまち」と呼ばれる自然豊かな阿南市にあり、製紙用薬品を製造しています。昨年度末に製造釜攪拌機動力、照明器具などを省エネルギータイプに切り替え、大幅な電力削減を実現しました。2011年度も環境マネジメントシステムに従い、環境目標を掲げ、環境にやさしく、お客様に満足いただける製品をお届けできる工場を目指していきます。

### ●工場トレンド

#### ■CO<sub>2</sub> 排出量



#### ■廃棄物発生量



## 鶴崎工場



工場長：佐藤 潔

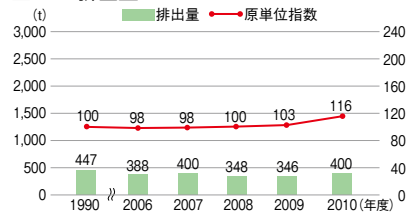


所在地：大分県大字家島字東松浦1120-3  
 設立：1970年5月  
 敷地面積：4,840m<sup>2</sup>  
 従業員：7名、協力会社員0名

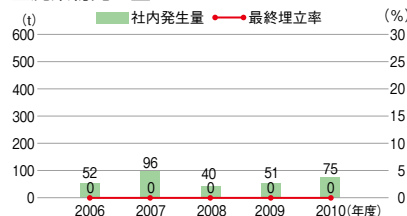
当工場は『豊の国』大分県大分市の中心に位置し、九州地方の生産拠点として製紙用薬品の製造をおこなっています。環境への取り組みとしては、環境マネジメントシステムに従い、場内の照明や釜透視灯をLEDなどの省エネルギー設備に変更するなど消費電力の削減を実施するとともに廃棄物のリサイクル促進にも取り組んでいます。今後も品質・安全・環境に注力し地域に信頼される工場運営をおこなっていきます。

### ●工場トレンド

#### ■CO<sub>2</sub> 排出量



#### ■廃棄物発生量





NPO法人 大阪環境  
カウンセラー協会 理事  
CEAR登録 環境主任審査員  
地球環境関西フォーラム  
戦略部会委員  
大阪産業大学、近畿大学、  
鳥取環境大学 講師  
**吉村 孝史**

荒川化学の「環境・社会報告書2011」でまず評価できることは、冒頭の末村長弘社長のあいさつです。3月11日の東日本大震災で、福島県いわき市の小名浜工場が被災され、生産設備や倉庫などの損害に加え、工業用水の供給ストップなどにより、1ヵ月以上工場の操業停止を余儀なくされました。全社を挙げて工場の復旧に努めた結果、5月中旬には全面操業にこぎつけたと、社長が自らの言葉で語っていることは、説得力があります。震災直後、本社に直ちに対策本部を設置し、被災状況の把握に努め、救護活動に着手したこと、被災の小名浜工場では、人員の安全確認を第一に迅速な対応をとったこと、そして自社工場が被害に遭いながらも国内外の工場で代替生産を行い、製品の安定供給に努めたこと。これらはまさにBCP(事業継続計画)を実践した実例です。環境だけでなく、「環境・社会報告書」の名にふさわしい内容であると評価できます。

私はパナソニック(株)在職時、阪神大震災の対策本部のメンバーとして被災工場の復旧と代替生産による製品の安定供給というメーカーの使命を痛感しました。

さて、地球は温暖化や生物多様性などで深刻な環境問題を抱えています。荒川化学は高い開発力と技術力によって、製紙用薬品や印刷インキ用樹脂、粘着・接着剤用樹脂、電子材料などで、有害な素材を使わず、しかも省エネルギーにつながる分野で、特徴的な製品群を次々と世の中に送り出しています。この製品群のさまざまな機能(くっつく・剥がす・丈夫にするなど)で暮らしを快適に、便利にしていることを分かりやすく説明し、環境配慮製品の売上が年々伸び、約半分を占めていることは評価できます。なお、新しい製品分野への発展事例として、

鉛フリークリームはんだの一段の高性能化に成功した新製品の発売とクリーンな過酸化水素を使用した、廃棄物の少ない酸化反応プロセスを開発したことは期待できます。

特に、生物多様性への対応については、昨年取り組みについて意見を述べましたが、「環境保安行動指針」に新たに組み込まれました。さらに、サイト別活動報告の中で、身近な生物多様性の取り組みとして、植樹、メダカ、カブトムシの生育環境の保全など全サイトが地域事情に合わせて実施していることも評価できます。

なお、当報告書の報告内容について提案したいこととして次の2点がありました。東日本大震災と福島原発事故以降、強く取り上げられている「再生可能エネルギーへの取り組み」と「アンケートなどへの対応」です。

■「再生可能エネルギーへの取り組み」については、特に原子力発電・地球温暖化との関係で、太陽光、風力、地熱、水力、バイオなどの再生可能エネルギーへの取り組みが強調され、今後急速に拡大するものとみられます。荒川化学の報告書には再生可能エネルギーに関する内容が見当たりません。省エネルギーに関しては、熱心に取り組まれています。しかし『省エネ』に加えて、エネルギーを非化石・非原子力燃料で創る『創エネ』つまり再生可能エネルギーへの取り組みが求められます。例えばソーラー・バイオなどの導入やソーラー機器等への部材としての参画です。今後の事業の方向のひとつとして検討すべき課題です。

■「アンケートなどへの対応」については、アンケートの結果を報告していることは評価できます。概して、評判がいいわけですが、それに満足することなく少数で耳の痛いことでもできることは対応すべきです。私は3つの大学で各社の環境報告書を学生に読ませ意見を聞いています。「少し字数が多い。文字が多い」「専門的で難しい」「生物多様性取り上げるべき」などがありました。2010年アンケート結果でも「文章が長すぎる」「やや文章が多い」と出ています。2011年度は文章の分かりやすさや文章量の削減にも取り組まれたようですが、今後もアンケートを貴重な意見と捉えていくべきです。

## 第三者意見を受けて

吉村孝史様より第三者意見として、貴重なご意見、ご提案をいただきました。

まず、社長あいさつの中で言及しました東日本大震災での当社の対応を、第一にご評価いただきました。今回の経験を教訓に、メーカーとして製品の安定供給の使命を再認識し、安定供給体制の一層の強化を図っていきます。

また、ご提案いただきました「再生可能エネルギーへの取り組み」については、関連部材の参画など、当社の今後の事業の方向性のひとつとして、検討していきたいと思っております。

今回の特集では生活のさまざまなシーンで活躍する荒川化学の製品を分かりやすく紹介しました。今後も、環境にやさし

い新技術・新規事業の創生を通じて、グローバルな規模で社会に貢献できる企業を目指す当社の事業活動をより分かりやすく伝えていけるように、またアンケートで寄せられた回答に今後も真摯に対応し、環境・社会報告書作りを進めていきます。

今後もよろしくご支援、ご鞭撻の程  
お願い申し上げます。



荒川化学工業株式会社  
常務取締役  
経営企画室長  
環境保安担当  
**谷奥 勝三**

## 荒川化学工業株式会社

お問い合わせ先：品質環境保安室  
〒541-0046 大阪市中央区平野町 1 丁目 3 番 7 号  
TEL 06-6209-8524 FAX 06-6227-5817  
e-mail : info@arakawachem.co.jp  
URL : <http://www.arakawachem.co.jp>

